

**大学生のキャリア意識調査2007
追跡調査報告書[4年生・就職編]**

2009年6月

**京都大学高等教育研究開発推進センター
財団法人 電通育英会**

目次

はじめに・・・ 2

調査概要・・・ 3

I. 就職活動の結果と状況について

1. 就職活動の結果について・・・ 4
2. 就職活動の開始時期について・・・ 5
3. 就職活動における活動量について・・・ 8
4. 結果のまとめ・・・ 11

II. 内定を取得して就職活動を終了した学生について

1. 内定取得時期・・・ 12
2. 内定先が第一志望か否か・・・ 13
3. 内定先の規模・・・ 15
4. 内定先に対する満足感と転職計画の有無・・・ 17
5. 結果のまとめ・・・ 19

III. 就職活動に至るまでの大学生活との関連(3年生時点調査との比較検討)

1. 3年生時点の大学進学理由と就職活動結果との関連・・・ 20
2. 3年生時点の大学生活と就職活動結果との関連・・・ 23
3. 3年生時点のキャリア関連活動と就職活動結果との関連・・・ 27
4. 3年生時点のキャリア意識と就職活動結果との関連・・・ 29
5. 実際の就職活動と就職活動結果との関連・・・ 33
6. 結果のまとめ・・・ 36

IV. 自己意識、友人関係、社会意識との関連

1. 自己意識・・・ 38
2. 友人関係・・・ 41
3. 社会意識・・・ 44
4. 結果のまとめ・・・ 46

V. 就職活動結果別にみた学生の特徴について・・・ 47

はじめに

大学生のキャリア意識調査は、京都大学高等教育研究開発推進センターと財団法人電通育英会とが共催する「大学生研究プロジェクト」の一環である。昨年は、『大学生のキャリア意識調査 2007』の結果を報告した。これは1年生・3年生を対象とした大学生全国調査で、大学生のキャリア意識や将来展望はもちろんのこと、広く学業やクラブ・サークル、交友関係などキャンパスライフ全般についても尋ねる「学生の学びと成長」に関する包括的な調査である。大学生の全国調査は少しずつなされるようになってきたが、同一項目で継続してなされる調査はきわめて少ない。このような現状のもと、本調査は継続して3年おきに実施されるものである。

『大学生のキャリア意識調査』の実施は3年おきなので、あいだの年には、私たちが重要な課題だと考えるものを取り上げ、それについて細かく分析していくことを計画していた。調査設計・分析に労働政策研究・研修機構の下村英雄氏を迎え、プロジェクト関係者と議論を重ねた結果、2008年度は『大学生のキャリア意識調査 2007』の回答者を追跡し、就職活動とその結果がどのようなものであったかを検討することと決まった。本報告書『大学生のキャリア意識調査 2007 追跡報告書[4年生・就職編]』は、その結果報告である。調査は2・4年生両方を対象としておこなわれたが、報告書では就職活動とその結果に焦点を当てて、4年生のみを分析対象としている。

詳しい結果は以下のページをご覧くださいとして、ここでは結果を見て私が考えたことを1つだけ述べておく。端的に言って、それは学業と就職活動との関連である。私のこれまでの研究成果では、授業・授業外学習をしっかりとおこなっている学生は、そうでない学生に比べて、大学教育を通して自身が成長していると実感する程度が高かった。この関連性が、就職活動とその結果を目的とする本研究においてもおおむね認められるということである。すなわち、図 III-6 からは、「就職活動を行い、第1志望に内定」「試験」のグループが、他のグループに比べて、「大学で授業や実験に参加する」「授業に関する勉強（予習・復習や宿題・課題など）をする」が将来や人生設計により貢献したと回答している。

また図表 III-6 からは、「就職活動を行い、第1志望以外に内定」のグループが、他のグループに比べて、「授業に関する勉強（予習・復習や宿題・課題など）をする」の週あたりの時間数が少ない。大学での学業は、直接的に就職活動やその結果に関連しない活動であるが、本研究の結果はその両者が暗に関連性を持つことを示唆している。今後は、授業学習と授業外学習、自主学習の分別、三者のバランスを総合的にふまえた学習タイプの検討をおこない、上記の結果を確認していきたいところである。

最後に、大学生研究プロジェクトは、本報告書をはじめとする調査パートと、毎年夏に開催される「大学生研究フォーラム」のパートの2つから構成されて進められている。一般的に、大学生調査の結果が大学教育やキャリア教育の実践とどのようにつながるのかという検討がまったくもって不十分である。大学生研究フォーラムでは、できるだけ本報告書の結果と大学教育・キャリア教育の実践とを架橋して、議論をおこなっていききたい。

溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター）

- * 『大学生のキャリア意識調査 2007 追跡』の調査票、調査結果の詳しい数字は、下記の電通育英会ホームページ上で公開している。
<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>
- **『大学生のキャリア意識調査 2007』の調査結果、観点別に分析した下記のリリース原稿も、上記ホームページ上で公開しているので、あわせて参照されたい。
- ▶ 浅野志津子氏(相模女子大学)「学習動機が大学生の学習に及ぼす影響」
 - ▶ 浦上昌則氏(南山大学)「進路選択に対する自己効力」についての分析－自己効力感の低い学生に着目して－」
 - ▶ 谷田薫氏(関西学院大学)「大学への進学理由と現在の大学へ在席している理由(進学理由と在学理由)」

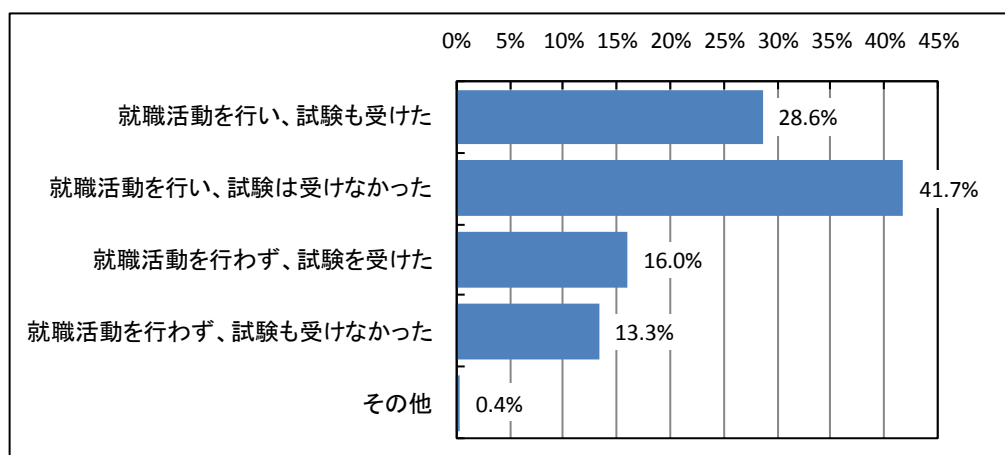
調査概要

調査名		大学生のキャリア意識調査 2007	大学生のキャリア意識調査 2007 追跡
1	調査目的	大学 1 年生・3 年生の大学生生活実態ならびにキャリア形成活動・将来設計・就職意識を把握し、当財団の奨学事業の参考とする。	『大学生のキャリア意識調査 2007』の回答者の 1 年後を追跡調査し、1 年前の大学生生活の過ごし方や将来設計がどのように就職活動やその結果等に影響を及ぼしているかを検討する。
2	調査エリア	全国	全国
3	調査対象	4 年制大学、医系・薬系 6 年生大学に通う 1 年生・3 年生	『大学生のキャリア意識調査 2007』の有効回答者
4	調査方法	インターネットリサーチ	インターネットリサーチ
5	調査対象抽出法	(株)電通リサーチ MLLIO-NET モニターより無作為抽出	2007 年調査の有効回答者を調査対象とした
6	有効回収数	大学 1 年生 988 人 (男子 512 女子 476) 大学 3 年生 1025 人 (男子 563 女子 462)	大学 2 年生 398 人(配信 930 回収率 42.7%) (男子 188 女子 210) 大学 4 年生 563 人(配信 991 回収率 56.8%) (男子 293 女子 270)
7	実施時期	2007 年 11 月 8-14 日	2008 年 11 月 12-18 日
8	調査実施機関	(株)電通リサーチ	(株)電通リサーチ
9	企画	財団法人 電通育英会 所在地:東京都中央区銀座 7-4-17 電通銀座ビル	財団法人 電通育英会 所在地:東京都中央区銀座 7-4-17 電通銀座ビル
10	調査アドバイザー	京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授 溝上慎一氏	京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授 溝上慎一氏
11	調査設計	京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授 溝上慎一氏	労働政策研究・研修機構 キャリアガイダンス部門 副主任研究員 下村英雄氏
12	解析・コメント執筆	福島大学 人間発達文化学類 准教授 中間玲子氏	労働政策研究・研修機構 キャリアガイダンス部門 副主任研究員 下村英雄氏

Ⅰ. 就職活動の結果と状況について

1. 就職活動の結果について

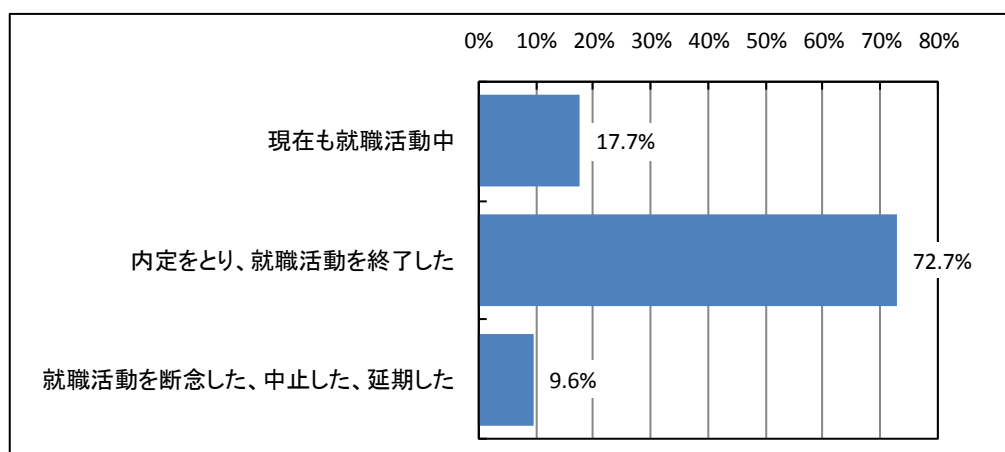
2009年調査における大学4年生の就職活動の状況は、図表Ⅰ-1のとおりであった。「就職活動を行い、試験は受けなかった」が41.7%と最も多く、以下、「就職活動を行い、試験も受けた」(28.6%)、「就職活動を行わず、試験を受けた」(16.0%)と続いていた。



図表Ⅰ-1 2009年調査における大学4年生(N=568)の就職活動状況

就職活動を行った学生については、就職活動の結果について質問を行った。その結果、「内定をとり、就職活動を終了した」が72.7%と最も多く、「現在も就職活動中」(17.3%)、「就職活動を断念した、中止した、延期した」(9.6%)となった(図表Ⅰ-2)。

なお、就職活動とあわせて公務員試験や教員採用試験、大学院入試などを受験した学生と、就職活動のみを行った学生では、就職活動のみを行った学生の方が内定取得の割合が高かった(図表Ⅰ-3)



図表Ⅰ-2 就職活動を行った4年生(N=396)の就職活動結果

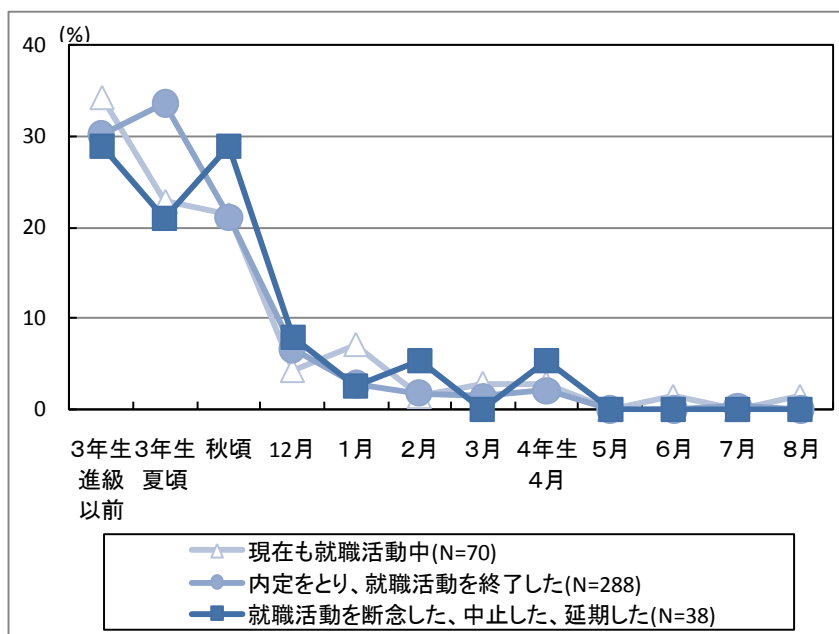
図表 I-3 就職活動を行った学生の就職活動結果(公務員試験等の受験の有無別)

	内定をとり、就職活動を終了した	現在も就職活動中	就職活動を断念した、中止した、延期した	合計
就職活動を行い、試験も受けた	97 60.2%	36 22.4%	28 17.4%	161 100.0%
就職活動を行い、試験は受けなかった	191 81.3%	34 14.5%	10 4.3%	235 100.0%
合計	288 72.7%	70 17.7%	38 9.6%	396 100.0%

2. 就職活動の開始時期について

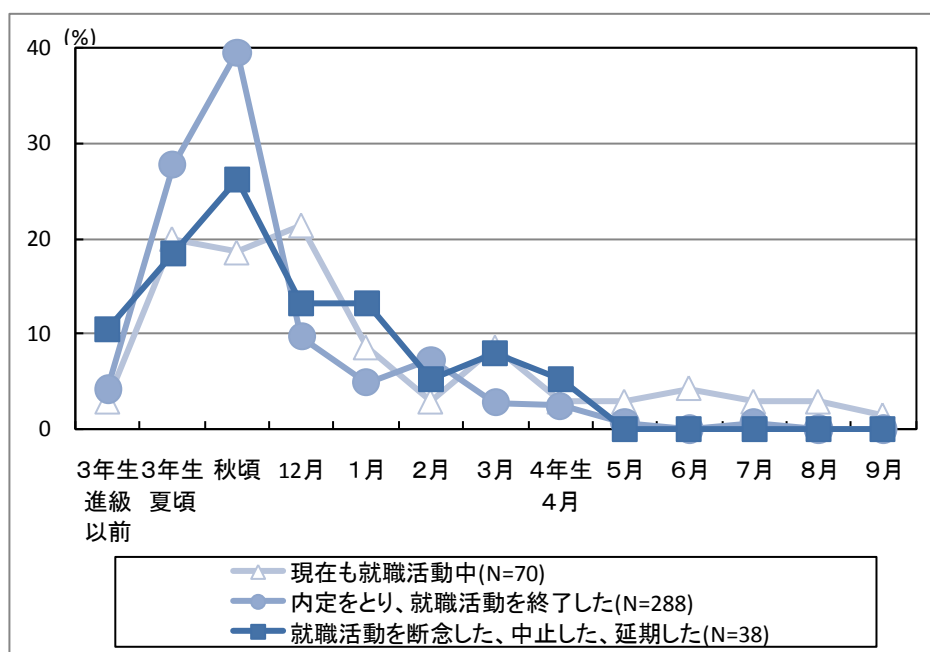
上述した就職活動結果別に就職活動の開始時期について検討を行った。

まず、図表 I-4 には、「就職について考え始めた時期」を図示した。図の元となったクロス表は全体としては統計的に有意ではなかったが、「現在も就職活動中」の学生は就職について考え始めた時期が若干早く、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生は就職について考え始めた時期が若干遅いのが目立つ。



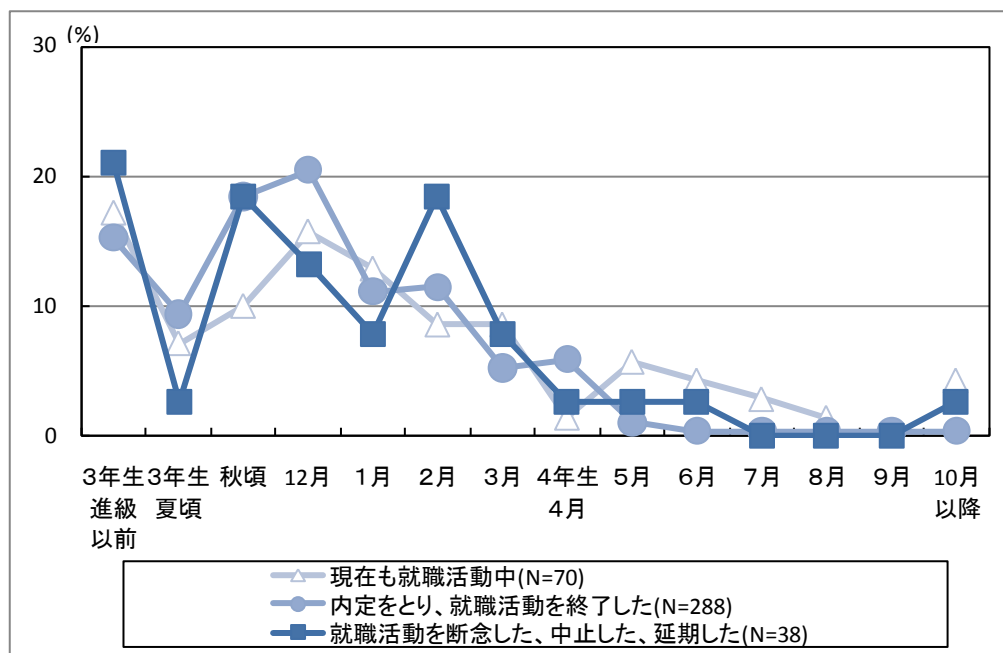
図表 I-4 就職活動結果別の「就職について考え始めた時期」

図表 I-5 には、「就職に関する情報を探し始めた時期」を図示した。図の元となったクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は「秋頃」に情報を探し始めた割合が高かった一方、「現在も就職活動中」の学生は「秋頃」に情報を探し始めた割合が低かった。また、「現在の就職活動中」の学生は「12月」および「6月」などに情報を探し始める割合も高かった。



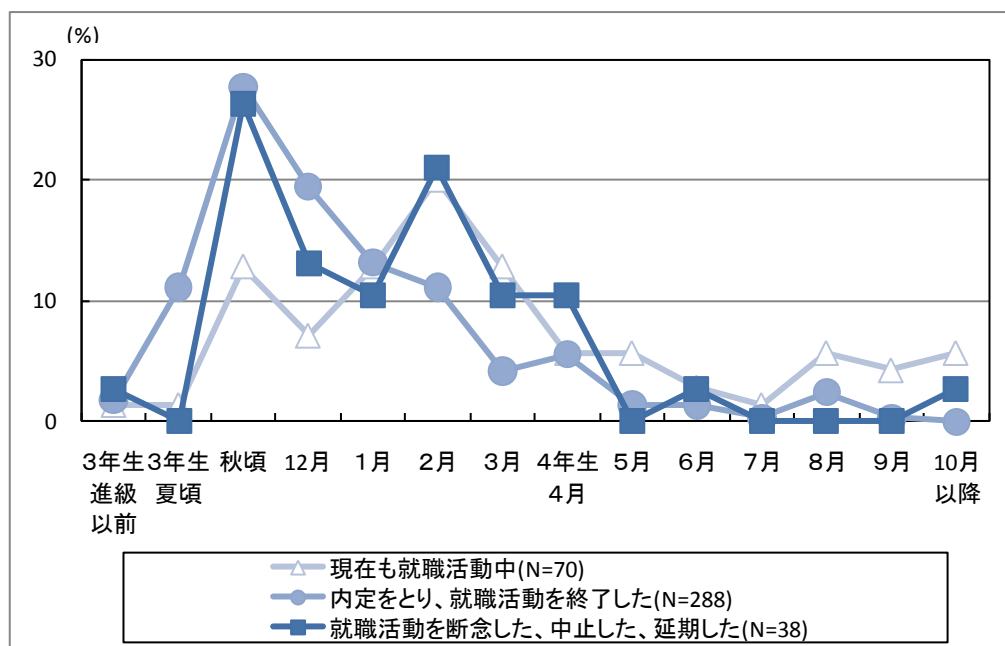
図表 I-5 就職活動結果別の「就職に関する情報を探し始めた時期」

図表 I-6 には、「就職したいと思った業種をイメージし始めた時期」を図示した。図の元となったクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、「現在も就職活動中」の学生は「5月」「6月」「7月」に就職したいと思った業種をイメージし始めた割合が高かった。一方、同時期に「内定をとり、就職活動を終了した」学生は業種をイメージし始めた割合が低かった。



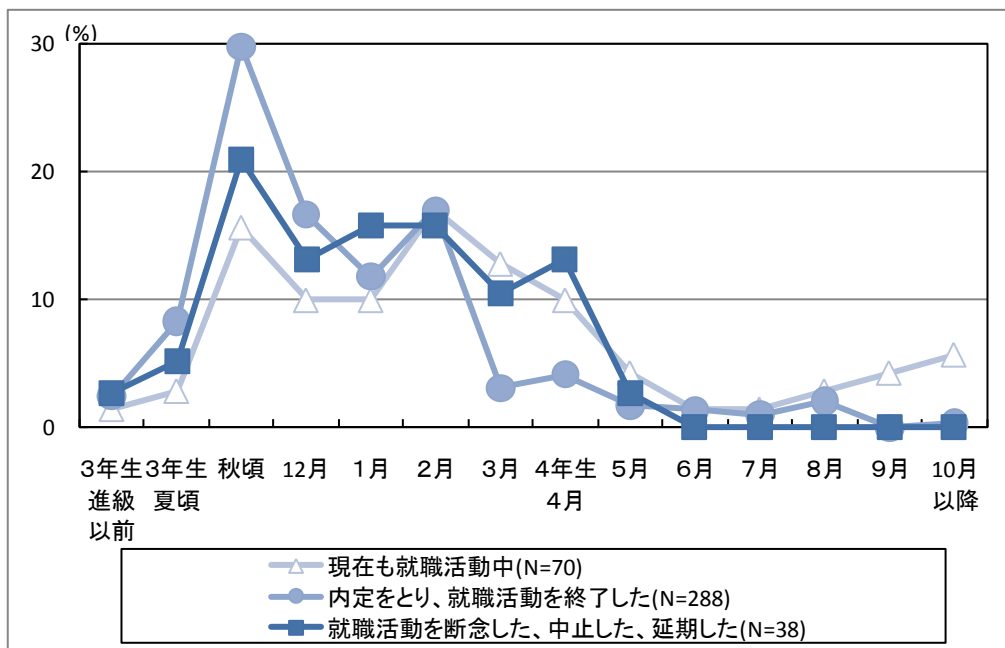
図表 I-6 就職活動結果別の「就職したいと思った業種をイメージし始めた時期」

図表 I-7には、「自発的に就職活動を始めた時期」を図示した。図の元となったクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は「3年生夏頃」「秋頃」「12月」に自発的に就職活動を始めた割合が高く、「2月」「3月」に就職活動を始めた割合は低かった。一方で、「現在の就職活動中」の学生は「3年生夏頃」「秋頃」「12月」に自発的に就職活動を始めた割合は低く、4年生の「3月」「5月」「9月」「10月」に就職活動を始めた割合が高かった。



図表 I-7 就職活動結果別の「自発的に就職活動を始めた時期」

図表 I-8には、「説明会、セミナー等に参加し始めた時期」を図示した。図の元となったクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は「秋頃」に説明会・セミナーに参加し始めた割合が高く、「3月」「4月」に説明会・セミナーに参加し始めた割合は低かった。一方、「現在の就職活動中」の学生は「秋頃」に説明会・セミナーに参加し始めた割合は低く、4年生の「3月」「9月」「10月」に説明会・セミナーに参加し始めた割合が高かった。

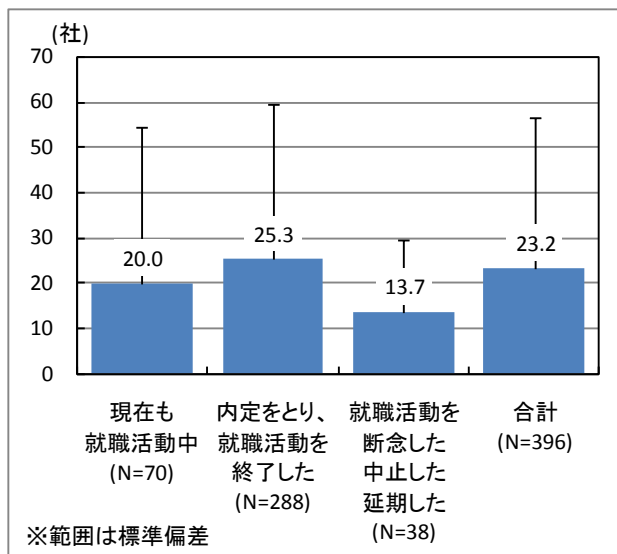


図表 I-8 就職活動結果別の「説明会、セミナー等に参加し始めた時期」

3. 就職活動における活動量について

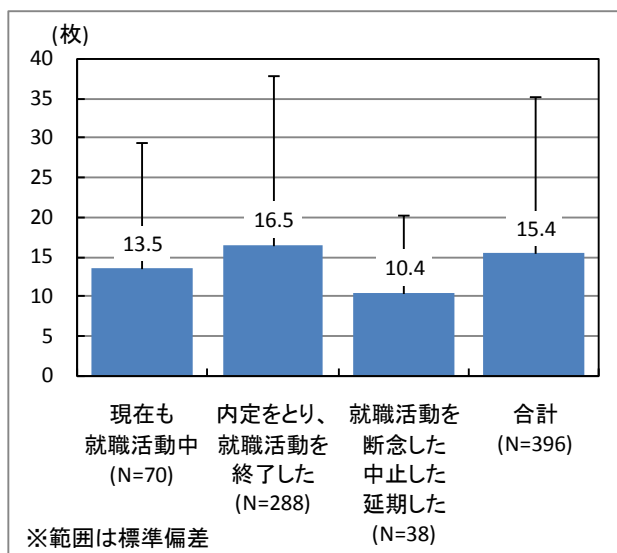
図表 I-9～図表 I-13 には、就職活動における様々な活動の量を就職活動の結果別にまとめた。

図表 I-9 には、「資料請求数」を図示した。統計的に有意な差はみられなかったが、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は 25.3 社と資料請求数が多く、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生は 13.7 社と資料請求数が少ないことが示された。



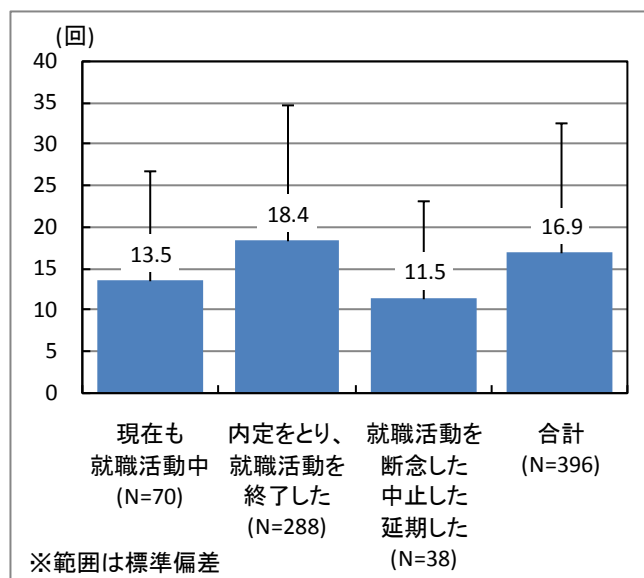
図表 I-9 就職活動結果別の「資料請求数」

図表 I-10には、「エントリーシートの提出」枚数を図示した。統計的に有意な差はみられなかったが、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は16.5枚とエントリーシートの提出枚数が多く、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生は10.4枚とエントリーシートの提出枚数が少ないことが示された。



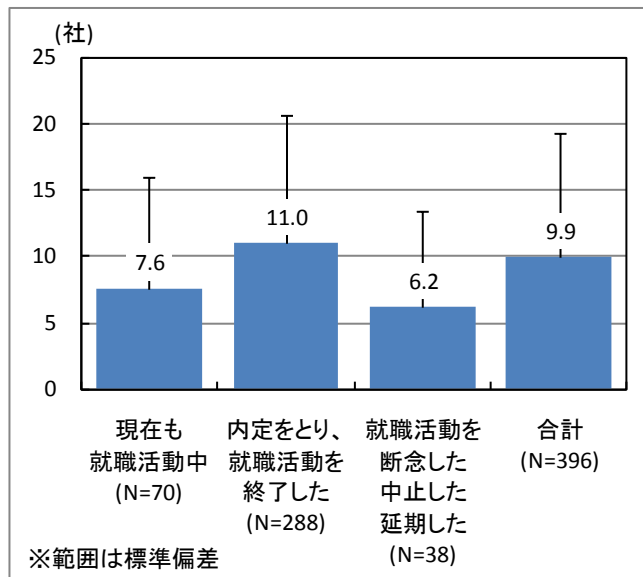
図表 I-10 就職活動結果別の「エントリーシートの提出」枚数

図表 I-11には、「会社説明会（セミナー）出席」数を図示した。統計的に有意な差がみられ、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は18.4社の会社説明会・セミナーに出席し、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生の11.5社よりも多いことが示された。



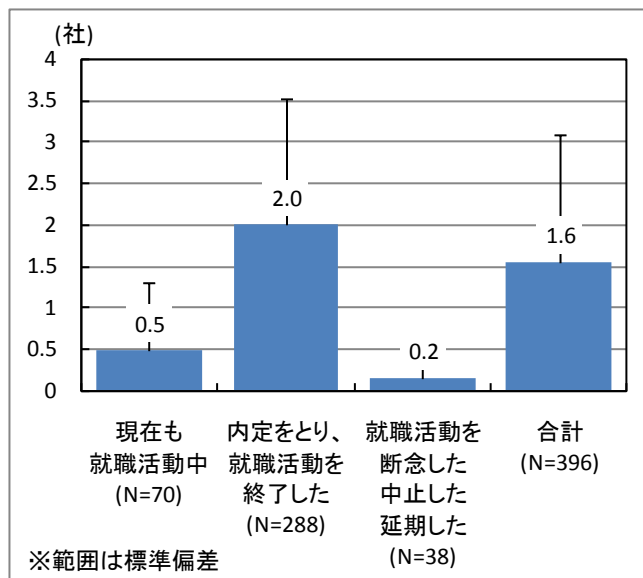
図表 I-11 就職活動結果別の「会社説明会(セミナー)出席」数

図表 I-12には、「面接（集団面接、グループディスカッションを含む）」数を図示した。統計的に有意な差がみられ、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は11.0社の面接を受け、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生の6.2社、「現在も就職活動中」の学生の7.6社よりも多いことが示された。



図表 I-12 就職活動結果別の「面接(集団面接、グループディスカッションを含む)」数

図表 I-13には、「内定取得数」を図示した。統計的に有意な差がみられ、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は2.0社の内定を取得し、「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生の0.2社、「現在も就職活動中」の学生の0.5社よりも多かった。



図表 I-13 就職活動結果別の「内定取得数」

4. 結果のまとめ

以上の結果をまとめると、以下の4点が示される。

①現在、「内定をとり、就職活動を終了した」学生は、早ければ3年生の夏、遅くとも3年生の12月に自発的に就職活動を始めた割合が高く、3年生の秋頃に就職に関する情報探索を考え始めた割合、説明会・セミナーに参加し始めた割合が高い。

②「現在も就職活動中」の学生は、秋頃に情報探索を始める割合が低く、12月に情報探索を始める割合が高い。6月などの遅い時期に始める割合も高い。また、5～7月などの遅い時期に就職したい業種をイメージする割合が高い。さらに、自発的に就職活動を始める時期および説明会・セミナーに参加し始める時期が3年生の秋頃である割合が低く、4年生の9月や10月にずれ込む割合も高い。

③「就職活動を断念した、中止した、延期した」学生には顕著な特徴はみられなかった。

④概して、内定を取得して就職活動を終了した学生は、就職活動中の活動量が多く、会社説明会、面接など就職活動が進むにつれて統計的にも明確な差が見られるようになる。その結果、最終的な内定取得数に差が生じる。一方で、就職活動を途中で断念した学生および現在も就職活動中の学生は、概して、就職活動量が少ない。

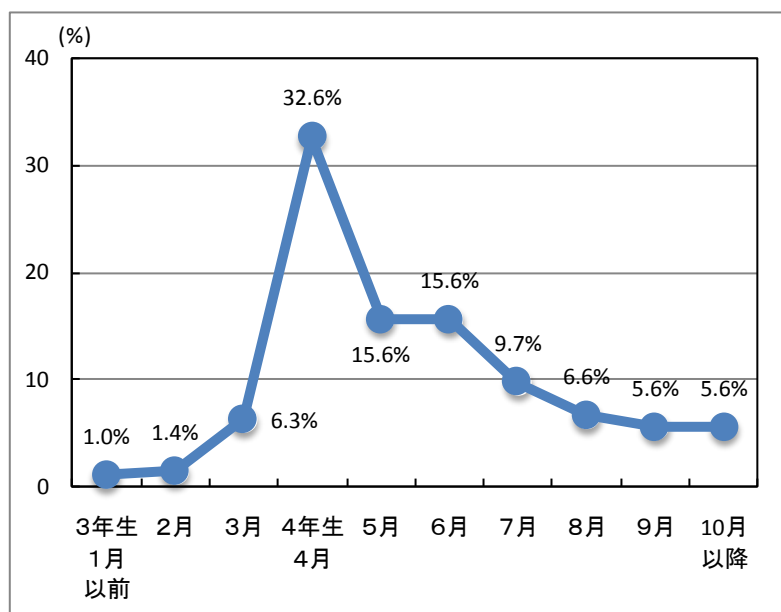
上記の点から、調査実施の4年生の11月時点で内定を取得して就職活動を終了した学生は、就職活動の取りかかりが早く、かつ活動量が多いということが示される。

II. 内定を取得して就職活動を終了した学生について

内定を取得して就職活動を終了した学生については、さらに詳細な質問を行ったので以下に詳しく検討する。

1. 内定取得時期

図表Ⅱ－1には、内定を取得して就職活動を終了した学生が、最終的に決定した就職先の内定取得時期をまとめた。「4年生4月」に内定を取得した学生が32.6%と最も多く、以下、「4年生5月」15.6%、「4年生6月」15.6%と続いていた。



図表Ⅱ－1 内定を取得して就職活動を終了した学生の内定取得時期(N=288)

図表Ⅱ－2には、前項までに検討した就職活動の「開始時期」および「活動量」と内定取得時期との関連をまとめた。最も大きな相関係数は「自発的に就職活動を始めた時期」(.31)との間にみられており、自発的に就職活動を始めた時期が早ければ早いほど、内定取得時期も早かった。同様に、「就職に関する情報を探し始めた時期」(.18)とも関連がみられた。

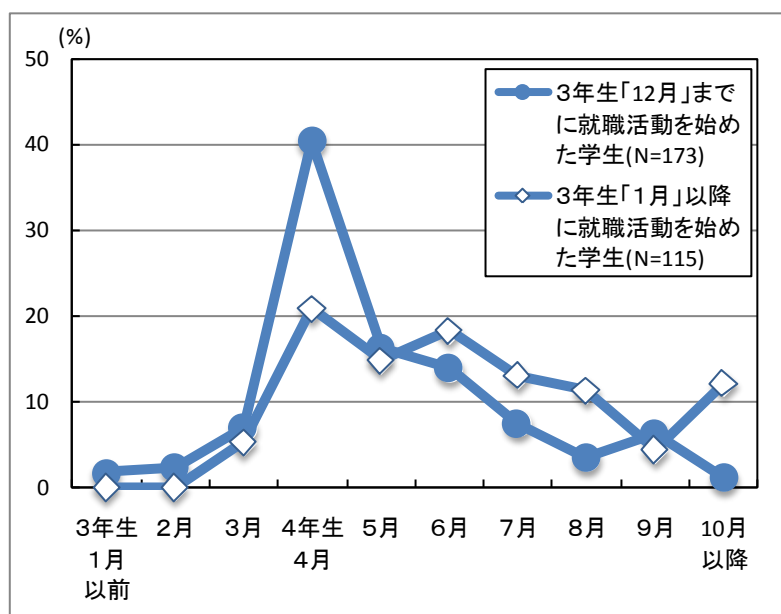
また、就職活動量では「資料請求数」(-.16)、「会社説明会(セミナー)出席」(-.16)にも統計的に有意な相関がみられた。資料請求数または会社説明会に出席する数が多ければ多いほど、内定取得時期は早かった。

図表Ⅱ－3には、就職活動開始時期と内定取得時期の関連を、より具体的な形で図示した。図表Ⅱ－2でもっとも相関係数が大きかった「自発的に就職活動を始めた時期」が3年生の「12月」までだった学生173名と、3年生の「1月」以降に就職活動を始めた学生115名の内定取得時期を示した。自発的に就職活動をはじめた時期が12月までの学生の約4割が4年生の4月に内定を取得しているのに対して、1月以降の学生では、4年生の6月以降にずれ込む学生が一定割合でいたことが示される。

図表Ⅱ-2 就職活動の開始時期および就職活動量と内定取得時期との関連

	内定 取得 時期
就職について考え始めた時期	.10
就職に関する情報を探し始めた時期	.18
就職したいと思った業種をイメージし始めた時期	.10
自発的に就職活動を始めた時期	.31
資料請求数	-.16
エントリーシートの提出	-.11
会社説明会(セミナー)出席	-.16
面接(集団面接、グループディスカッションを含む)	-.08
内定取得数	-.15

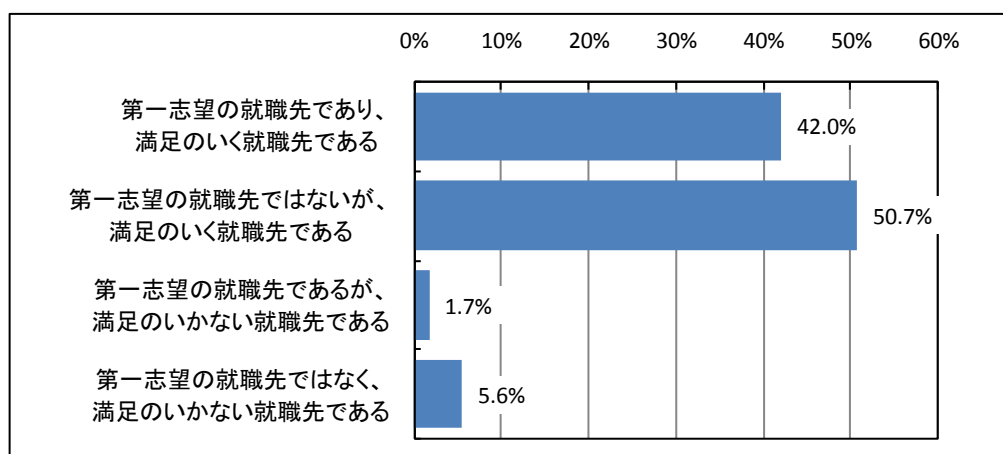
※スピアマンの順位相関係数
網かけは1%水準で有意な相関係数



図表Ⅱ-3 就職活動の開始時期別にみた内定取得時期

2. 内定先が第一志望か否か

「内定をとり、就職活動を終了した」学生には、就職先が第一志望であったか否か、および満足いく就職先であったか否かもたずねた。その結果、「第一志望の就職先ではないが、満足いく就職先である」と回答した学生が 50.7%と最も多く、以下、「第一志望の就職先であり、満足いく就職先である」(42.0%)と続いていた(図表Ⅱ-4)。内定がとれた学生は、おおむね自らの内定先を満足いくものだと考えており、内定先は第一志望だったか否かによって大別されるようであった。



図表Ⅱ-4 内定先が第一志望か否か、満足している就職先か否か(N=288)

内定先が第一志望か否かと「就職活動の開始時期」および「就職活動の活動量」との関連を検討した結果、就職活動の活動量と関連がみられた。図表Ⅱ-5には、図表Ⅱ-4の回答別に就職活動の活動量の平均を示した。「会社説明会(セミナー)出席」および「面接(集団面接、グループディスカッションを含む)」で統計的に有意な差がみられた。どちらも、「第一志望の就職先であり、満足している就職先である」学生が最も値が小さく、「第一志望の就職先ではなく満足していない就職先である」と回答した学生の値が大きかった。

図表Ⅱ-5 内定先が第一志望か否か別にみた就職活動の活動量

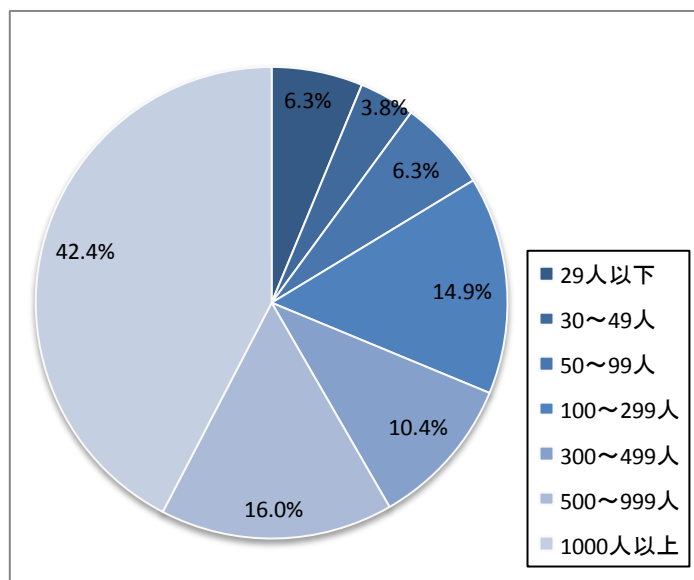
	第一志望の就職先であり、満足している就職先である(N=121)	第一志望の就職先ではないが、満足している就職先である(N=146)	第一志望の就職先であるが、満足していない就職先である(N=5)	第一志望の就職先ではなく、満足していない就職先である(N=16)	合計
資料請求数(社)	22.0	26.6	34.4	34.8	25.3
エントリーシートの提出(枚)	13.3	19.0	12.6	19.6	16.5
会社説明会(セミナー)出席(回)	14.1	21.1	22.2	25.5	18.4
面接(集団面接、グループディスカッションを含む)(社)	7.4	13.5	10.2	15.8	11.0
内定取得数(社)	2.0	1.9	2.4	2.5	2.0

※「会社説明会」「面接」は1%水準で有意(Kruskal Wallis検定)

なお、前項図表Ⅱ-2では、「会社説明会」への参加数が多いほど内定取得時期が早いという結果が示されており、ここで示された「会社説明会」への参加数が少ないほど内定先が第一志望であるという結果と表面上矛盾する。これは、早い段階でとれた内定が必ずしも第一志望ではない場合があることに起因する。活動量の多さから早めに内定がとれたとしても、その後、言わば本命の第一志望の企業から内定がとれないという場合が相当するあることが推測される。

3. 内定先の規模

図表Ⅱ－6には、「内定をとり就職活動を終了した」学生が、最終的に決定した就職先の従業員規模を示した。内定先が「1000人以上」の大企業である学生が42.4%と最も多く、以下、「500～999人」(16.0%)、「100～299人」(14.9%)と続いていた。



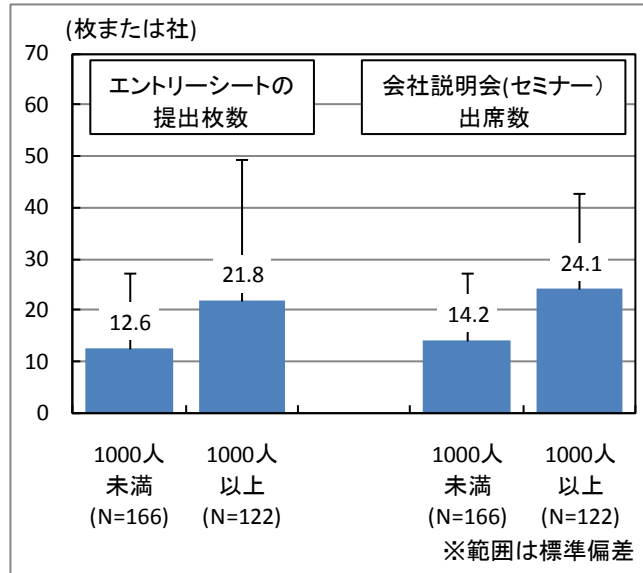
図表Ⅱ－6 内定先の従業員規模(N=288)

内定先の従業員規模と就職活動の「開始時期」および「活動量」との関連を検討した。その結果、図表Ⅱ－7に示したとおり、就職活動の開始時期および就職活動の活動量と広く関連がみられた。最も相関係数の値が大きかったのは、「エントリーシートの提出」(.29) および「会社説明会(セミナー)出席」(.29)であり、エントリーシートの枚数および会社説明会への参加回数が多いほど、内定先の従業員数も多かった。

図表Ⅱ－7 就職活動の開始時期および就職活動量と内定先の従業員数との関連

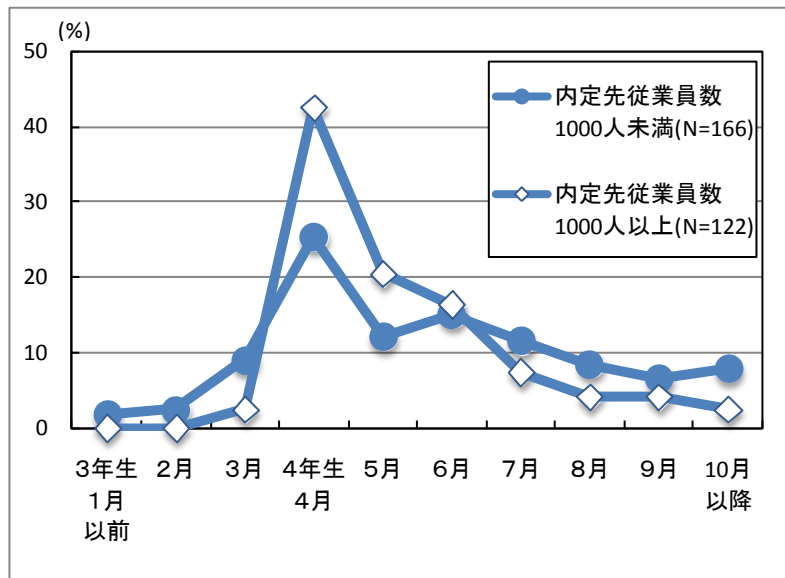
	内定先 従業員数
就職について考え始めた時期	-.16
就職に関する情報を探し始めた時期	-.11
就職したいと思った業種をイメージし始めた時期	-.11
自発的に就職活動を始めた時期	-.18
資料請求数	.25
エントリーシートの提出	.29
会社説明会(セミナー)出席	.29
面接(集団面接、グループディスカッションを含む)	.25
内定取得数	.23
最終的に決定した就職先の内定時期	-.11
※スピアマンの順位相関係数	
網かけは1%水準で有意な相関係数	

図表Ⅱ－8には、就職活動開始時期と内定先の従業員数の関連をより具体的に図示した。内定先の従業員数が1,000人以上の学生と1,000人未満の学生で、「エントリーシートの提出」「会社説明会(セミナー)出席」がどの程度異なるのか示すために、それぞれの平均値を図示した。「エントリーシートの提出」「会社説明会(セミナー)出席」ともに、約1.7倍程度の活動量の違いがあることが示される。



図表Ⅱ－8 「エントリーシートの提出」枚数および「会社説明会(セミナー)出席」数と内定先の従業員数との関連

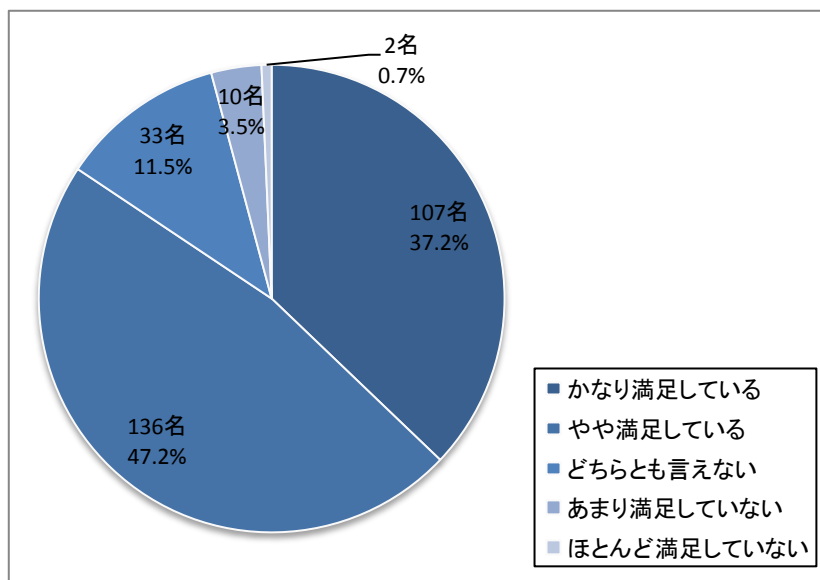
また、図表Ⅱ－9に示したとおり、内定先の従業員数が大きい場合、内定取得時期が4月～5月に集中する傾向もみられた。内定先の従業員数が1,000人未満の学生は2月、3月から内定を取得し、7月以降も内定を取得していた。



図表Ⅱ－9 内定先の従業員数別にみた内定取得時期

4. 内定先に対する満足感と転職計画の有無

図表Ⅱ－10には、内定先に対する満足感を図示した。最終的に決定した就職先に対する満足感をたずねた結果、「やや満足している」が47.2%で最も多く、「かなり満足している」(37.2%)が続いていた。就職活動を行って内定を取得した学生の約8割強は自らの内定先に何らかの形で満足感を感じていることが示される。



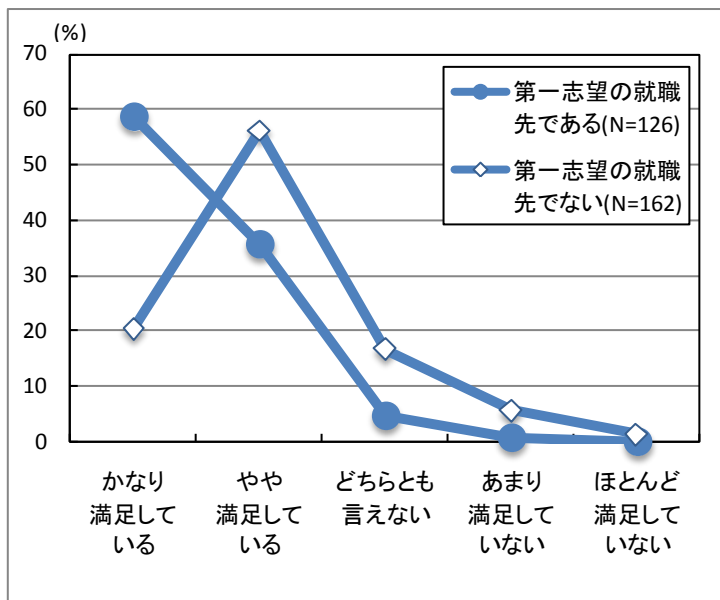
図表Ⅱ－10 内定先に対する満足感

図表Ⅱ－11には、就職活動の「開始時期」および「活動量」との関連を検討した結果である。統計的に有意な相関係数はなく、就職活動そのものと就職先に対する満足感にはほとんど関連がないことが示された。

図表Ⅱ－11 就職活動の開始時期および就職活動量と内定先に対する満足感との関連

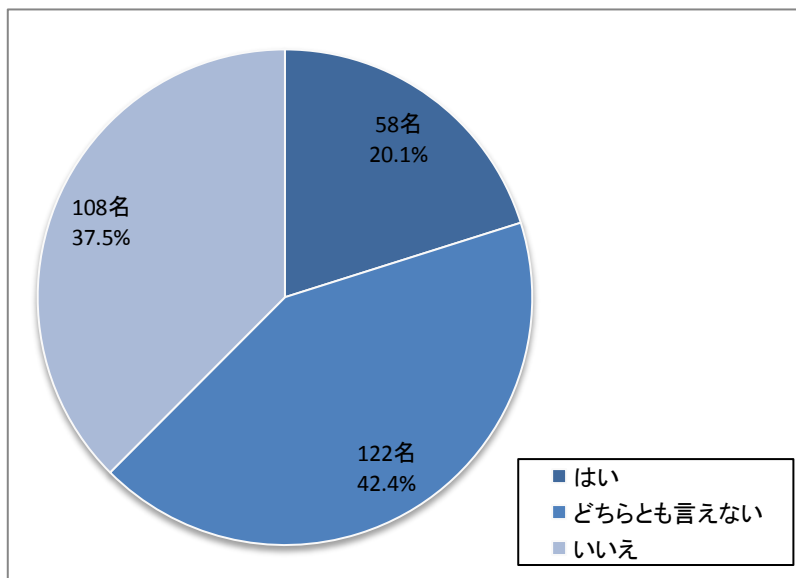
	内定先の 満足感
就職について考え始めた時期	.03
就職に関する情報を探し始めた時期	.00
就職したいと思った業種をイメージし始めた時期	.01
自発的に就職活動を始めた時期	-.01
資料請求数	-.09
エントリーシートの提出	-.01
会社説明会(セミナー)出席	-.01
面接(集団面接、グループディスカッションを含む)	.05
内定取得数	-.04
最終的に決定した就職先の内定時期	.14
※スピアマンの順位相関係数	
1%水準で統計的に有意な相関係数はなし	

また、内定した就職先が第一志望であったか否かとは密接な関連がみられていた。図表Ⅱ-12に示したとおり、内定先が第一志望であった学生は約6割が「かなり満足している」と回答していた。一方、内定先が第一志望でなかった学生は、約6割が「やや満足している」と回答していた。



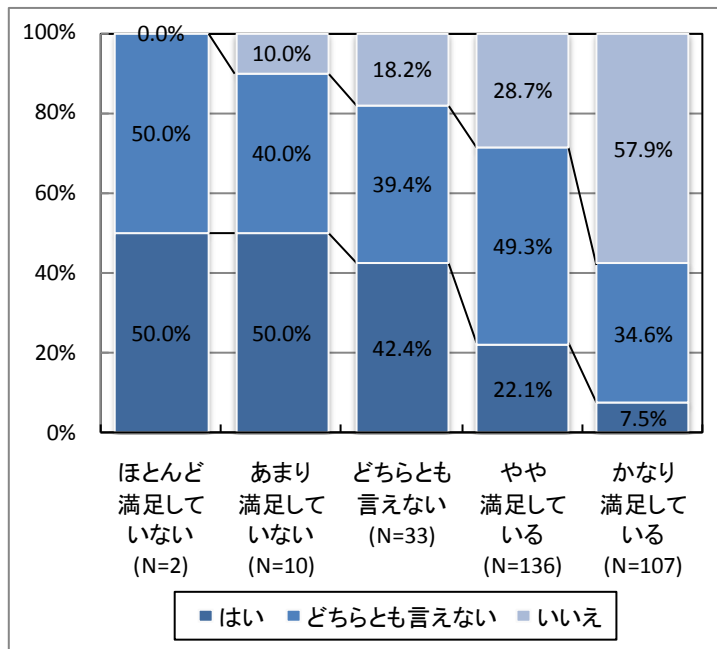
図表Ⅱ-12 内定した就職先が第一志望か否か別の内定先に対する満足感

図表Ⅱ-13には、数年後に転職する計画があるかをたずねた結果である。「どちらとも言えない」が42.4%と最も多く、「いいえ」が37.5%と続いていた。



図表Ⅱ-13 数年後の転職計画の有無

転職計画の有無は、内定した就職先の満足感と密接に関連しており、図表Ⅱ－14に示したとおり、内定した就職先に満足感を感じていない学生ほど、現段階で、数年後の転職を計画していることが示される。



図表Ⅱ－14 内定先に対する満足感と転職計画の有無との関連

5. 結果のまとめ

内定を取得して就職活動を終了した学生に関する以上の結果をまとめると、以下の4点が示される。

①内定取得時期に関しては、4年生の4月に内定をとる学生が多かったが、就職活動の開始時期および活動量と関連しており、概して、開始時期が早く活動量が多いほど内定取得時期が早いことが示された。特に、3年生の12月までに就職活動を開始するか否かは内定取得時期に大きく関わるようであった。

②内定先が第一志望か否かについては、第一志望の就職先に内定した学生の方が、概して、就職活動量が少なかった。上記①とあわせると、就職活動量が多い方が内定を取得する割合は大きいですが、第一志望に内定した場合は就職活動量が少ないという結果がみられた。

③内定した就職先の従業員数は、約4割の学生が1,000人以上の企業に内定していた。また、内定した就職先の従業員数は、就職活動の開始時期および活動量と関連していた。

④内定先に対する満足度は概して高いが、就職活動の開始時期および活動量とは関連がなかった。内定先が第一志望か否かとは関連がみられており、第一志望に内定を取得した学生の方が満足度は高かった。また、内定先に対する満足度が低いほど、数年後に転職をするという計画をもっていた。

以上の結果から、内定を取得して就職活動を終了した4年生の中で比較した場合、就職活動の取りかかりが早くかつ活動量が多いほど、より規模の大きな企業により早く内定がとれたということが言える。ただし、第一志望に内定した場合は就職活動量が少なかった。

Ⅲ. 就職活動に至るまでの大学生活との関連 (3年生時点調査との比較検討)

本節では、ちょうど1年前、3年生だった2007年時点の調査結果との比較検討を行う。3年生時で調査にどのように回答していたかによって、就職活動の結果がどのように異なるかを中心に分析を進めることとした。

分析を行うにあたって、ここまでの集計結果もとに、①就職活動を行ったか否か、②内定を獲得したか否か、③内定先が第一志望であったか否かで、2008年調査に回答した大学4年生の就職活動結果が大まかに分類されることに着目した。そこで、この3つの要因の組み合わせによってグループ分けを行い、後の分析に用いることとした。

図表Ⅲ-1は、上記①～③を組み合わせで学生を分類した結果である。表から、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生が最も多く162名(28.9%)であった。以下、「就職活動を行い、第一志望に内定」126名(22.5%)、「就職活動を行い、未内定」108名(19.3%)と続いていた。なお、「試験」は90名(16.0%)を占めていたが、そのほとんどが公務員試験、教員試験、大学院入試のいずれかの試験を受験し、就職活動を行わなかった学生であった。

図表Ⅲ-1 調査に回答した4年生の就職活動結果によるグループ
(就職活動の有無、内定の有無、内定先が第一志望か否かで大別した学生の該当数およびその割合)

	該当数	%
就職活動を行い、第一志望に内定	126	22.5%
就職活動を行い、第一志望以外に内定	162	28.9%
試験	90	16.0%
就職活動を行い、未内定	108	19.3%
就職活動行わず	75	13.4%
合計	561	100.0%

1. 3年生時点の大学進学理由と就職活動結果との関連

図表Ⅲ-2は、図表Ⅲ-1に示した就職活動結果のグループ別に、ちょうど1年前、3年生だった2007年時点の調査で「大学に進学した理由として現在最も重視しているもの」を集計した結果である。表から以下のことが示される。

①「就職活動行わず」の学生は、1年前の3年生時点で、大学に進学した理由を「教養や視野の拡大」と考えていた割合が低く、「学問研究」「家族がすすめる」「特に理由はない」と考えていた割合が高かった。

②就職活動は行わず公務員・教員試験または大学院入試などのみを行った「試験」の学生は、大学に進学した理由を「専門知識、技術の習得」と考えていた割合が高く、「青春を楽しむ」と考えていた割合は低かった。

③「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生は、大学に進学した理由を「専門知識、技術の習得」と考えていた割合が低く、「青春を楽しむ」「課外活動にはげむ」と考え

ていた割合が高かった。

④「就職活動を行い、第一志望に内定」の学生は、大学に進学した理由を「課外活動にはげむ」と考えていた割合が低かった。

図表Ⅲ-2 就職活動結果別にみた

2007年調査(3年生時点)で「大学に進学した理由として最も重視していたもの」

	就職活動行わず (N=75)	試験 (N=90)	就職活動を行い、未内定 (N=108)	就職活動を行い、第一志望以外に内定	就職活動を行い、第一志望に内定 (N=126)	合計 (N=561)
教養や視野の拡大	8.0% -2.22	14.4% -0.69	21.3% 1.35	19.1% 0.89	17.5% 0.18	16.9%
立派な人格形成	4.0% 0.13	1.1% -1.44	3.7% -0.02	4.3% 0.46	4.8% 0.68	3.7%
専門知識、技術の習得	33.3% 1.51	41.1% 3.51	20.4% -1.53	14.8% -3.91	31.0% 1.38	26.2%
学問研究	10.7% 2.43	6.7% 0.80	4.6% -0.19	3.1% -1.32	3.2% -1.06	5.0%
就職に有利	9.3% -0.51	5.6% -1.81	12.0% 0.36	14.8% 1.81	10.3% -0.30	11.1%
就職に必要な勉強をする	6.7% -1.26	11.1% 0.08	13.0% 0.78	9.9% -0.48	12.7% 0.75	10.9%
将来の安定した生活	4.0% -1.13	11.1% 1.60	4.6% -1.12	8.6% 0.89	6.3% -0.39	7.1%
青春を楽しむ	9.3% 0.87	1.1% -2.38	4.6% -1.06	10.5% 2.10	7.1% 0.10	7.0%
課外活動にはげむ	1.3% -0.69	1.1% -0.92	2.8% 0.21	5.6% 2.96	0.0% -2.04	2.5%
皆が行くから	0.0% -0.79	1.1% 0.49	0.9% 0.29	0.6% -0.17	0.8% 0.12	0.7%
家族がすすめる	1.3% 2.55	0.0% -0.44	0.0% -0.49	0.0% -0.64	0.0% -0.54	0.2%
先生がすすめる	0.0% -0.39	0.0% -0.44	0.0% -0.49	0.0% -0.64	0.8% 1.86	0.2%
その他	1.3% -0.92	2.2% -0.49	4.6% 1.08	3.1% 0.05	3.2% 0.11	3.0%
特に理由はない	10.7% 2.09	3.3% -0.99	7.4% 0.95	5.6% 0.02	2.4% -1.75	5.5%

※各セル下段は調整済み標準化残差。絶対値が1.96以上の場合に5%水準で有意。統計的に有意なセルは網かけを行った。

図表Ⅲ-3は、3年生だった2007年時点の調査で「大学で学ぶ理由」を集計した結果である。表から以下のことが示される。

①「就職活動行わず」の学生は、3年生時点で、大学で学ぶ理由として「いろいろな人と出会えるから」「多くの人と交わることができるから」「新たな友人を作ることができるから」「人間関係が豊かになるから」など、の項目に肯定的に回答する傾向が低かった。

②就職活動は行わず「試験」を受けた学生は「なりたい職業や、資格のため」「高い専門性をみにつけたいから」「特に学びたいものがあるから」と回答する傾向が高く、「なんとなく勉強しているだけだ」と回答した傾向は低かった。

③「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生は、「人間関係が豊かになるから」「なんとなく勉強しているだけだ」と回答する傾向が高く、「なりたい職業や、資格のため」「高い専門性をみにつけたいから」「特に学びたいものがあるから」と回答する傾向が

低かった。

④「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は、「いろいろな人と出会えるから」「多くの人と交わることができるから」「新たな友人を作ることができるから」と回答する傾向が高かった。

図表Ⅲ-3 就職活動結果別にみた2007年調査(3年生時点)における「大学で学ぶ理由」

	就職活動 行わず (N=75)	試験 (N=90)	就職活動を行 い、未内定 (N=108)	就職活動を行 い、第一志望 以外に内定 (N=162)	就職活動を行 い、第一志望に 内定 (N=126)	
いろいろな人と出会えるから	2.81	3.03	2.84	3.12	3.18	**
多くの人と交わることができるから	2.75	2.97	2.76	3.09	3.10	**
新たな友人を作ることができるから	2.77	2.90	2.80	3.13	3.16	**
楽しそうな場だから	2.63	2.76	2.69	2.95	2.92	
人間関係が豊かになるから	2.69	2.96	2.94	3.09	3.00	**
視野を広げたいから	3.27	3.53	3.49	3.46	3.52	
自分を高めたいから	3.33	3.57	3.38	3.36	3.51	
幅広い教養を身につけたいから	3.29	3.53	3.32	3.31	3.41	
自分の幅を広げたいから	3.25	3.50	3.36	3.36	3.44	
物事を多様にみることができるから	3.05	3.17	3.13	3.17	3.14	
日常的に接したことに興味をもったから	2.59	2.72	2.68	2.80	2.85	
ふだん、疑問に感じたことを勉強したいから	2.60	2.69	2.66	2.62	2.69	
日常生活でみたり、聞いたりしたことについて学びたいから	2.55	2.70	2.61	2.70	2.75	
新聞、雑誌から、興味がわいたから	2.09	2.22	2.14	2.18	2.13	
自分の経験と知識が融合すると興味がわくから	2.71	2.92	2.90	2.85	2.80	
なりたい職業や、資格のため	3.07	3.34	3.05	2.85	3.06	**
高い専門性を身につけたいから	3.09	3.44	3.03	2.91	3.16	**
現在関わっている活動や仕事上、勉強することが必要であるから	2.11	2.59	2.38	2.23	2.39	
自分自身が関わった活動や仕事に関する事柄を学びたいから	2.39	2.69	2.60	2.51	2.69	
経験を裏付ける専門的知識がないから	2.36	2.72	2.51	2.49	2.60	
なんとなく勉強しているだけだ	2.45	2.16	2.42	2.56	2.29	**
義務的に勉強している	2.28	2.11	2.19	2.24	2.17	
ほかにやりたいことがなかったから	2.17	2.09	2.19	2.22	2.03	
特に学びたいものがあるから	2.77	2.86	2.67	2.49	2.79	**
興味ある分野を学びたいから	3.08	3.22	3.07	3.03	3.24	

※「1:あてはまる」～「4:あてはまらない」の4件法による回答。1%水準で有意な差がみられた項目を網かけにした。また、有意差がみられた項目で最も大きな値に網かけをし、最も小さな値に下線を付した。

ここまでの結果から、就職活動を行わなかった学生は、3年生時点における大学進学理由が不明確である一方、試験を受けた学生は専門知識や技術の習得であると考えていたことが示される。また、就職活動を行わなかった学生の非対人関係志向、試験を受けた学生の勉学志向、就職活動を行った学生の対人関係志向が推測される結果となった。ただし、同じく就職活動を行った学生でも、第一志望に内定しなかった学生では非勉学志向は顕著であった。

2. 3年生時点の大学生活と就職活動結果との関連

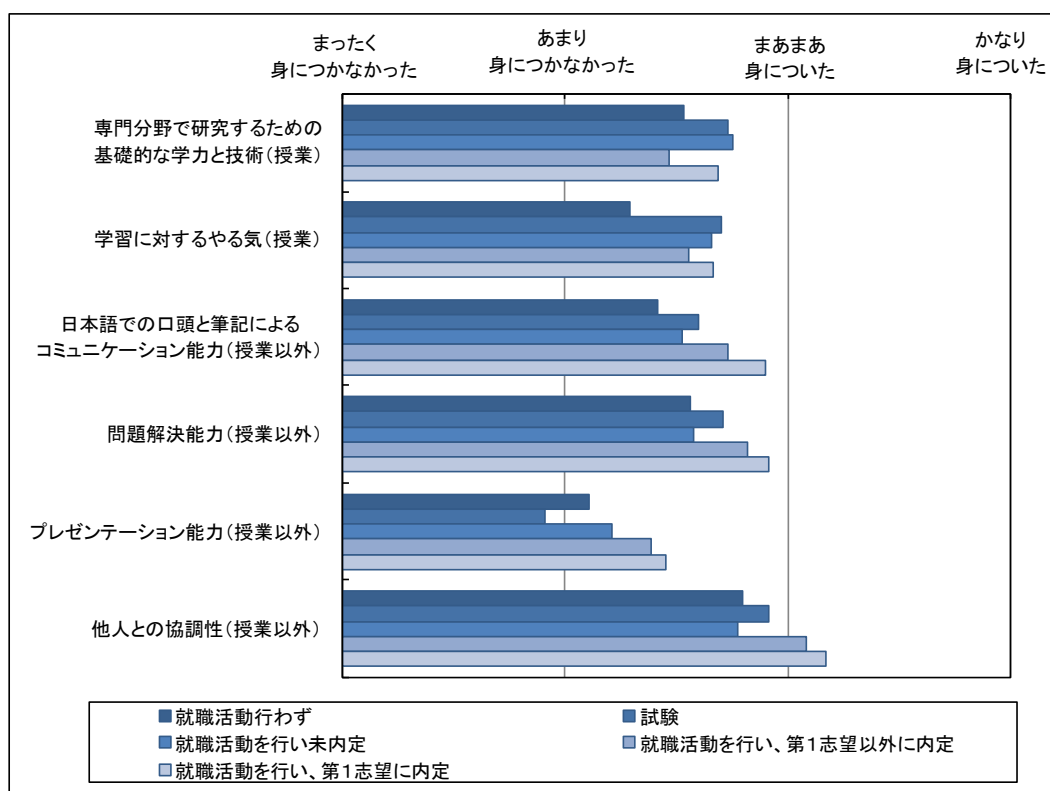
図表Ⅲ-4は、3年生の調査時点で「大学生活においてどのような能力や事柄が身についたか」を「授業」および「授業以外」の2側面から評価して結果である。図には、1%水準で統計的に有意な差がみられた項目のみを示した。図から以下のことが示される。

①「専門分野で研究するための基礎的な学力と技術（授業）」「学習に対するやる気（授業）」などが授業で身についたと回答する傾向が低かったのは、「就職活動を行わず」の学生および「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生であった。

②「日本語での口頭と筆記によるコミュニケーション能力（授業以外）」「問題解決能力（授業以外）」「他人との協調性（授業以外）」などが授業以外で身についたと回答する傾向は、おおむね「就職活動を行い、第一志望に内定」>「就職活動を行い、第一志望以外に内定」>「試験」>「就職活動を行い未内定」>「就職活動を行わず」の順に高かった。

③「プレゼンテーション能力（授業以外）」でも②と同様の傾向がみられたが、「試験」の学生が顕著に低かった。

概して、就職活動を行った学生はコミュニケーション能力・問題解決能力・プレゼンテーション能力・協調性が授業外で身についたと3年生時点で考えていた。ただし、第一志望以外に内定した学生（および就職活動をしなかった学生）は授業で学力が身についたと考える度合いが低かった。



図表Ⅲ-4 就職活動結果別にみた

2007年調査(3年生時点)における「大学生活で身についた能力や事柄」

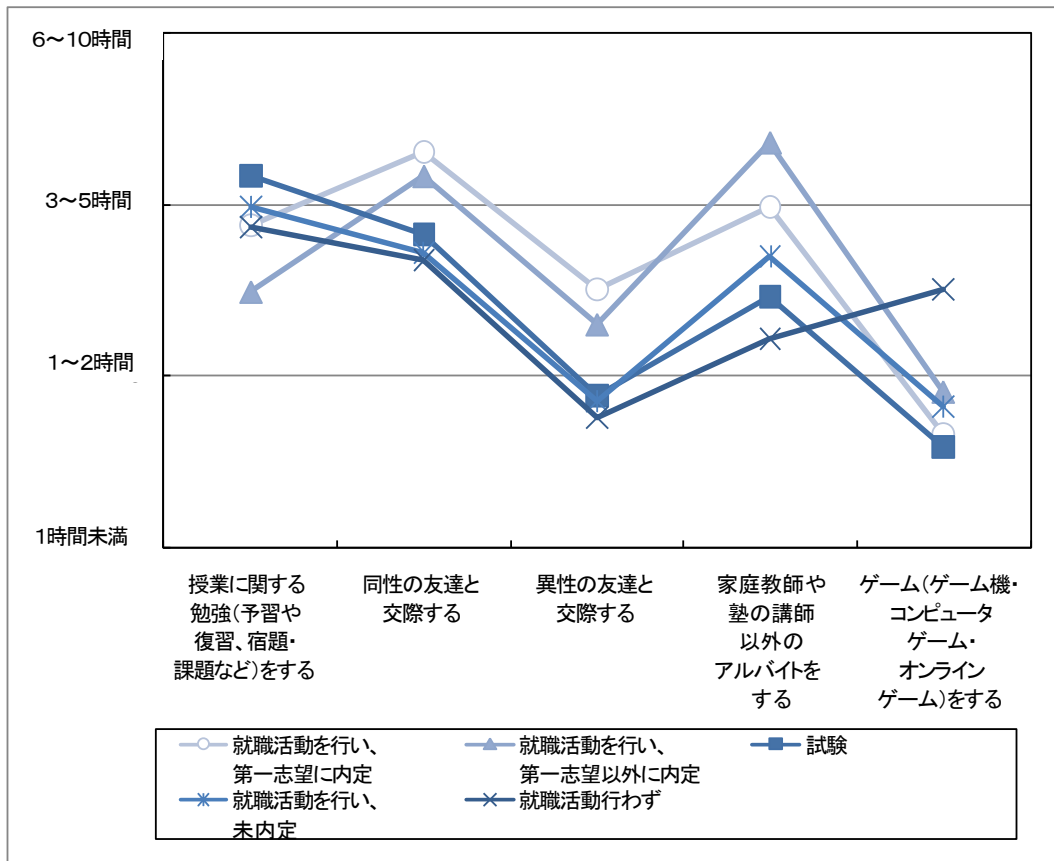
図表Ⅲ－５は、3年生だった2007年時点の調査で「過去1年間に費やした時間」を1週間平均の時間数として回答してもらった結果である。図には、5%水準で統計的に有意な差がみられた項目のみを示した。図から以下のことが示される。

①「授業に関する勉強（予習や復習、宿題・課題など）をする」に費やす時間は「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生で少ない。

②「同性の友達と交際する」「異性の友達と交際する」に費やす時間は「就職活動を行い、第一志望に内定」および「就職活動を行い、第一志望以外に内定」で多い。

③「家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする」時間は「就職活動を行い、第一志望以外に内定」>「就職活動を行い、第一志望に内定」>「就職活動を行い未内定」の順に多い。

④「ゲーム（ゲーム機・コンピュータゲーム・オンラインゲーム）をする」に費やす時間は「就職活動行わず」で多い。



図表Ⅲ－５ 就職活動結果別にみた
2007年調査(3年生時点)における「過去1年間に費やした時間(1週間平均)」

図表Ⅲ－６および図表Ⅲ－７には、3年生だった2007年時点の調査で「過去1年間の活動が将来や人生設計にどの程度、貢献したか」について回答してもらった結果を示した。5%水準で統計的に有意な差がみられた項目のみを図示した。図から以下のことが示され

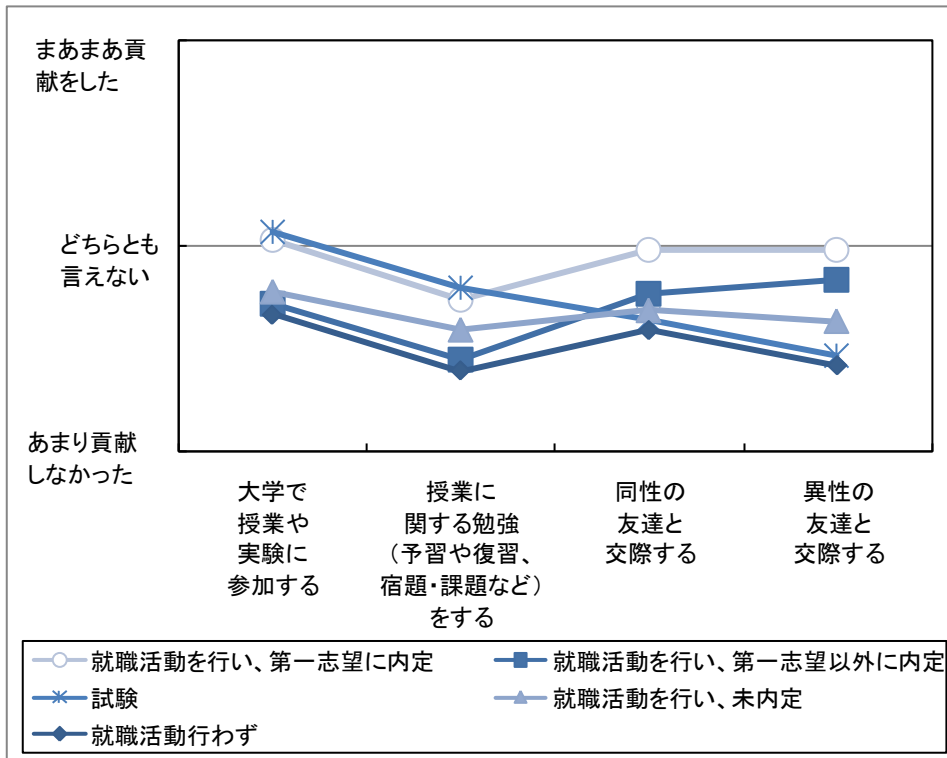
る。

①「大学で授業や実験に参加する」および「授業に関する勉強（予習や復習、宿題・課題など）をする」については、「就職活動を行い、第一志望に内定」「試験」の学生で、貢献したと回答する傾向があった。

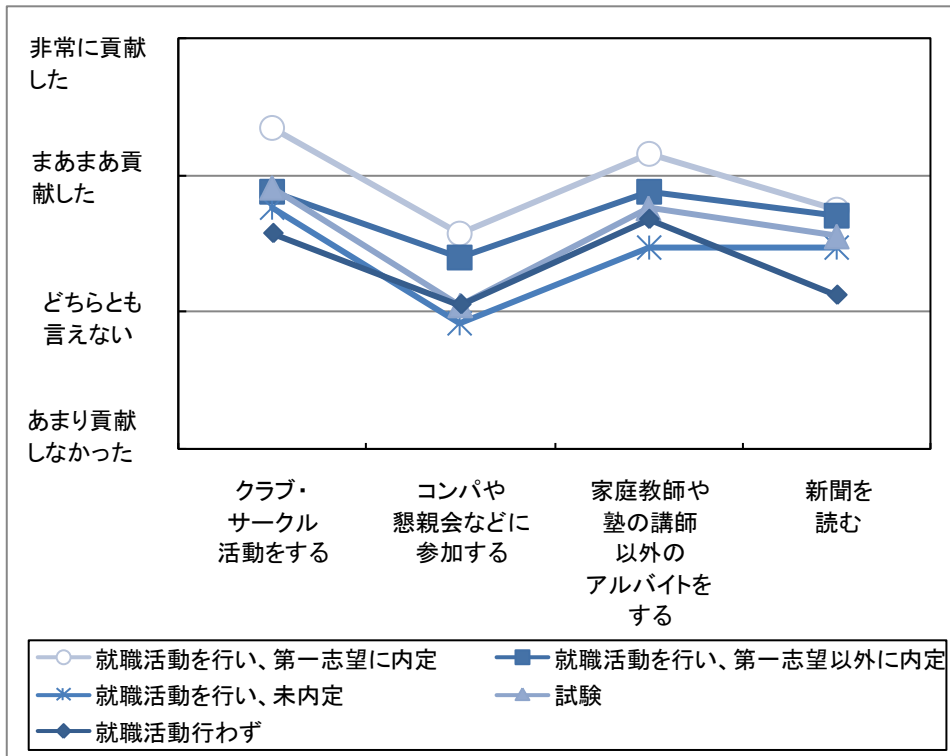
②「同性の友達と交際する」「異性の友達と交際する」「クラブ・サークル活動をする」「コンパや懇親会などに参加する」「家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする」については、「就職活動を行い、第一志望に内定」および「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生が、他に比べて貢献したと回答する傾向があった。

③「新聞を読む」は「就職活動を行わず」の学生で低かった。

基本的には、就職活動を行った学生は同性・異性の友人との交際、サークル活動、コンパ・懇親会、アルバイトなどが自分の将来や人生設計に貢献したと3年生時点で回答していたが、第一志望に内定を取得した学生（および試験を受けた学生）は大学での授業や勉強が貢献したと3年生時点で回答していた。



図表Ⅲ-6 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「過去1年間の活動が将来や人生設計にどの程度、貢献したか」①



図表Ⅲ-7 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「過去1年間の活動が将来や人生設計にどの程度、貢献したか」②

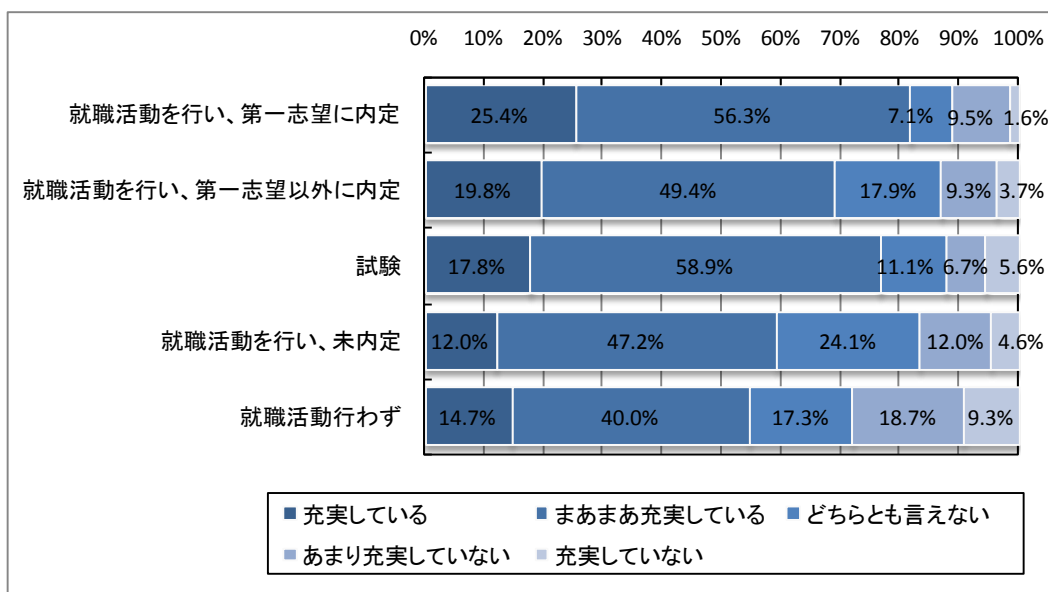
図表Ⅲ-8には、3年生だった2007年時点の調査における「あなたの学生生活は充実していますか」についての回答結果を示した。図の元になっているクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、特に顕著な傾向がみられるのは以下の点であった。

①「就職活動を行い、第一志望に内定」の学生は、「充実している」と回答する割合が高く、「どちらとも言えない」と回答する割合が低かった。

②「就職活動を行い、未内定」の学生は、「どちらとも言えない」と回答する割合が高かった。

③「就職活動行わず」の学生は、「まあまあ充実している」と回答する割合が低く、「あまり充実していない」「充実していない」と回答する割合が高かった。

第一志望に内定した学生および試験で就職した学生は、3年生時点で大学生活が充実していると回答した割合が高く、就職活動を行ったが未内定だった学生、就職活動を行わなかった学生は充実していると回答した割合が低かった。



図表Ⅲ-8 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「あなたの学生生活は充実していますか」

3. 3年生時点のキャリア関連活動と就職活動結果との関連

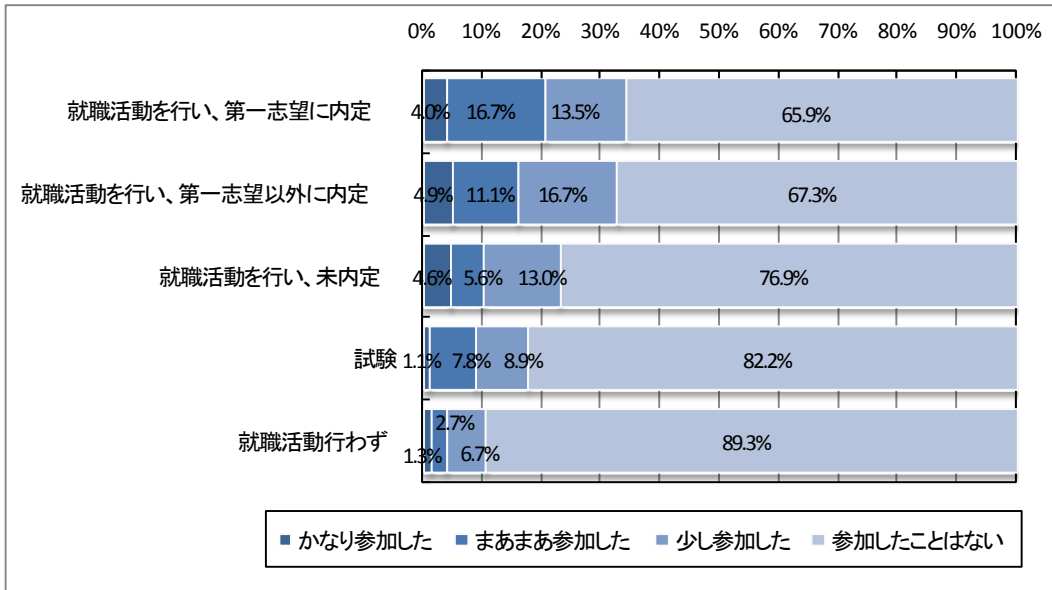
3年生だった2007年の調査時点における様々なキャリア関連活動と就職活動の関連を検討した。その結果、大学入学後のインターンシップ経験と就職活動結果に関連がみられた。

図表Ⅲ-9には、3年生だった2007年時点の調査における「(大学入学後に)あなたは、今までに企業・学校・官公庁等へのインターンシップ(職場体験、勤労実習などを含む)にどの程度参加しましたか」についての回答結果を示した。図の元になっているクロス表は統計的に有意であり、残差分析の結果、特に顕著な傾向がみられるのは以下の点であった。

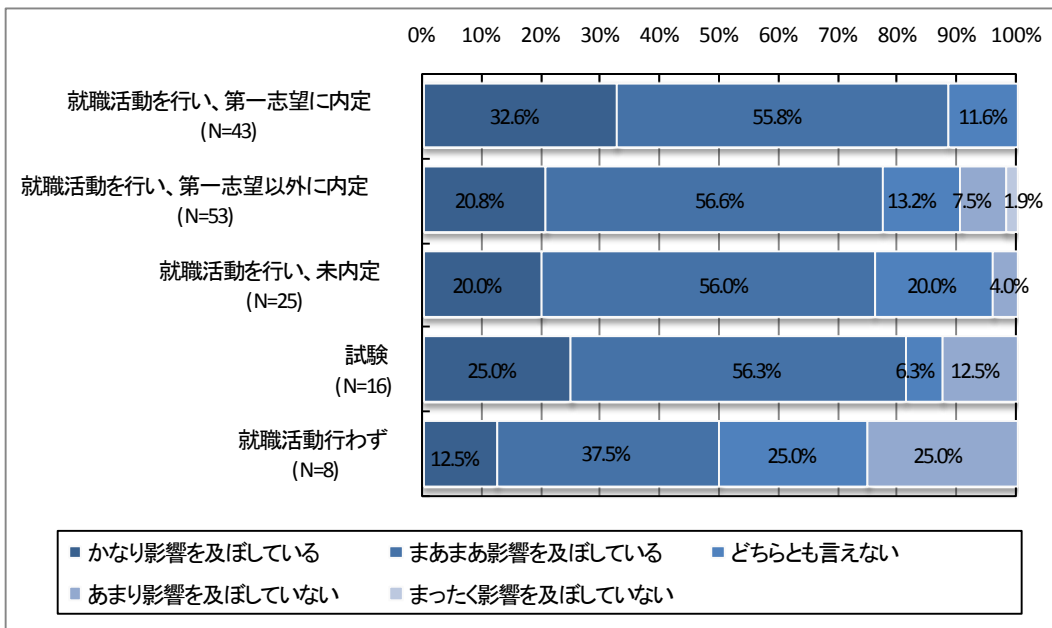
- ①「就職活動を行い、第一志望に内定」の学生は、「まあまあ参加した」と回答する割合が高く、「参加したことはない」と回答する割合が低かった。
- ②「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生は、「参加したことはない」と回答する割合が低かった。
- ③「就職活動行わず」の学生は、「まあまあ参加した」と回答する割合が低く、「参加したことはない」と回答する割合が高かった。

なお、参加した学生について、「インターンシップへの参加は今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか」という質問をした結果には、統計的に有意な違いがみられなかった。図表Ⅲ-10にその結果を図示した。おおむね「就職活動を行い、第一志望に内定」および「試験」の学生では「かなり影響を及ぼしている」と回答する割合が高く、「就職活動行わず」の学生では「まったく影響を及ぼしていない」と回答する割合が高かった。

概して、インターンシップに参加した学生は、インターンシップによって影響を受けたと回答した割合が高かったと言える。



図表Ⅲ-9 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における
大学入学後のインターンシップへの参加



図表Ⅲ-10 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における
大学入学後のインターンシップへの参加が「どの程度影響を及ぼしているか」

その他の様々なキャリア関連の取り組みと就職活動結果との関連も検討した。

具体的には、「ある問題を考えたり、発表したり、ディスカッションしたりする参加型の授業や演習」「授業などの単位の出るキャリア形成科目」「キャリアセンターなどで行う単位とは無関係のキャリア形成支援」「就職に関する相談」などとの関連を検討した。

図表Ⅲ-11には、統計的に有意な結果を図示した。多重比較の結果、以下の結果が示

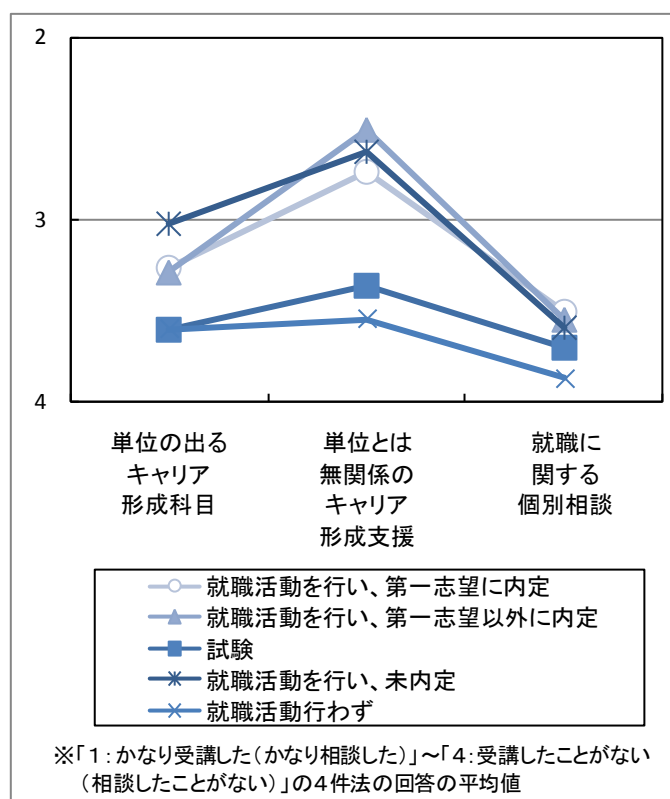
された。

①「授業などの単位の出るキャリア形成科目」は、「就職活動を行い、未内定」の学生は「試験」または「就職活動行わず」の学生よりも受講したと回答していた。

②「キャリアセンターなどで行う単位とは無関係のキャリア形成支援」は、「試験」または「就職活動行わず」の学生は他の学生に比べて受講していなかった。

③「就職に関する相談」は、「就職活動行わず」の学生は他の学生に比べて受講していなかった。

なお、参加型の授業や演習については、統計的に有意な関連はみられなかった。その他、ボランティア活動経験、中高までの進路指導に対する評価などとの関連も検討したが、統計的に有意な結果は得られなかった。

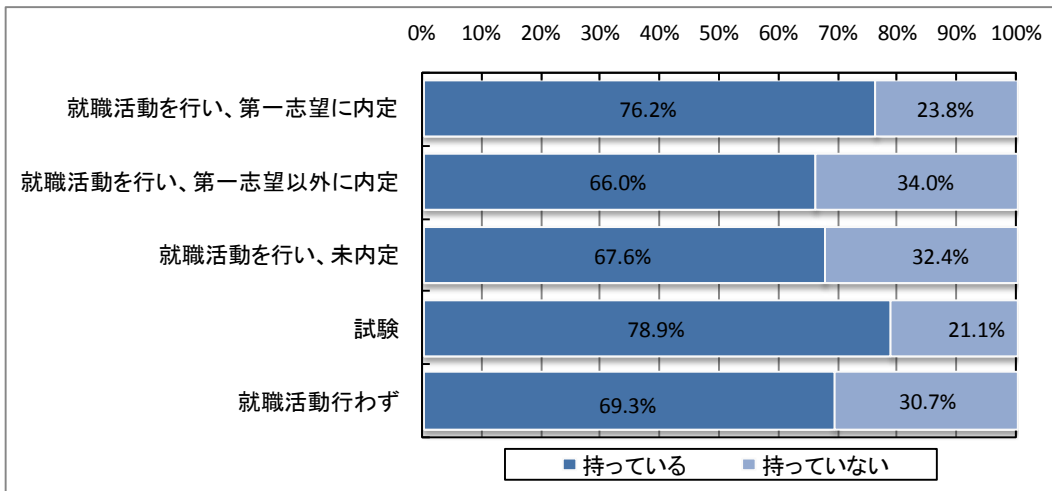


図表Ⅲ-11 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)におけるキャリア関連の様々な取り組みに関する回答

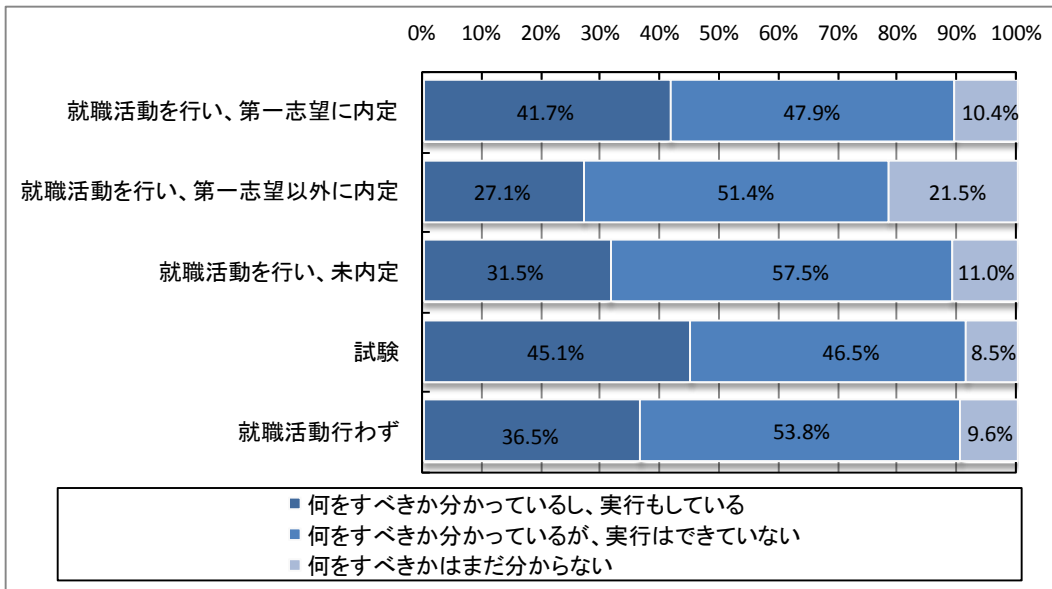
4. 3年生時点のキャリア意識と就職活動結果との関連

図表Ⅲ-12には、2007年調査で「あなたは、自分の将来についての見通しを持っていますか」という回答を、就職活動結果別にみたものを示した。図から、「就職活動を行い、第一志望に内定」および「試験」の学生で、将来の見通しを「持っている」と回答した学生が若干多くなっていることが示される。ただし、図の元になっているクロス表は統計的に有意ではなく、全体的には将来の見通しと就職活動結果には顕著な関連はみられなかった。

また、図表Ⅲ－13には、さらに細かく、自分の見通しの実現に向かって何をすべきか理解しているか、また、それを実行しているかをたずねた結果を図示した。図表Ⅲ－12と同様に、「就職活動を行い、第一志望に内定」および「試験」の学生では「何をすべきか分かっているし、実行もしている」とする回答が多かった。また、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は「何をすべきか分からない」と回答する割合が高かった。ただし、この図も、元になっているクロス表は統計的に有意ではなく、全体的には将来の見通しと就職活動結果には顕著な関連はみられなかった。



図表Ⅲ－12 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「あなたは、自分の将来についての見通しを持っていますか」



図表Ⅲ－13 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「自分の見通しの実現に向かって何をすべきか分かっていますか、それをまた実行していますか」

図表Ⅲ-14には、2007年の調査時点における将来に対する意識と就職活動の関連を検討した。各項目ともに平均値に有意な差がみられた。多重比較の結果、特に「私にはだいたいの将来設計がある」「将来のために考えて今から準備していることがある」の2項目で、「就職活動を行い、第一志望に内定」と「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の平均値の間に差がみられた。また、「私の将来には、希望がもてる」では、「就職活動を行い、第一志望に内定」と「就職活動を行い、未内定」「就職活動を行わず」との間に差がみられた。

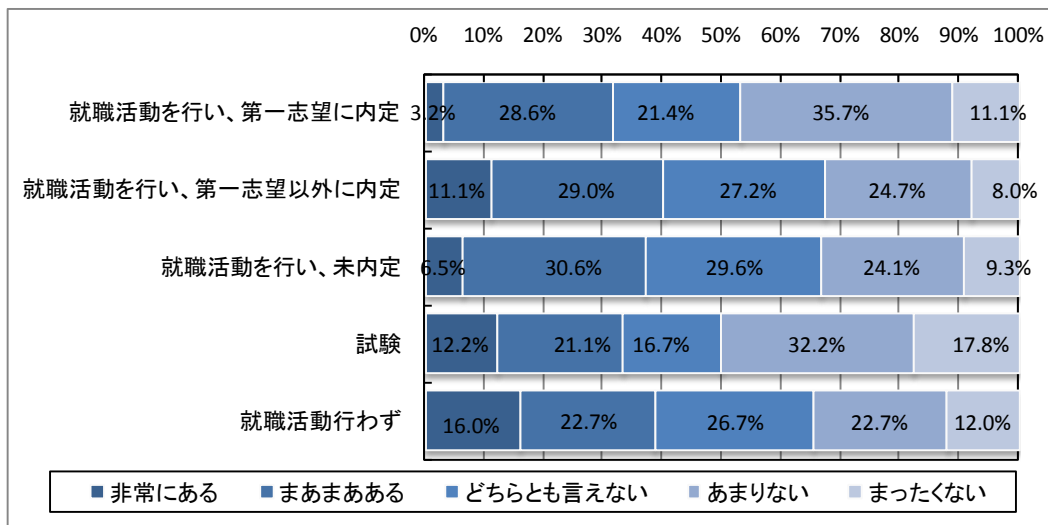
概して、3年生時点における将来設計の有無の面で、就職活動を行って第一志望に内定するか否かが異なっていたこと、将来が漠然としている、将来に希望がもてないといった考え方を就職活動を行わなかった学生はもっていたことが示される。

図表Ⅲ-14 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における将来に対する意識

私にはだいたいの将来設計がある	将来のために考えて今から準備していることがある	私の将来は漠然としていてつかみどころがない	将来のことはあまり考えたくない	私の将来には、希望がもてる
就職活動を行い、第一志望に内定	就職活動を行い、第一志望に内定	就職活動を行わず	就職活動を行わず	就職活動を行い、第一志望に内定
2.23	2.41	2.47	2.93	2.67
試験	試験	就職活動を行い、第一志望以外に内定	就職活動を行い、第一志望以外に内定	試験
2.29	2.51	2.54	3.07	2.81
就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、第一志望以外に内定
2.65	2.82	2.60	3.10	2.90
就職活動を行わず	就職活動を行わず	就職活動を行い、第一志望に内定	試験	就職活動を行い、未内定
2.71	2.83	2.89	3.40	3.09
就職活動を行い、第一志望以外に内定	就職活動を行い、第一志望以外に内定	試験	就職活動を行い、第一志望に内定	就職活動を行わず
2.72	2.88	2.96	3.40	3.21

※「1:あてはまる」～「5:あてはまらない」の5件法の回答の平均

図表Ⅲ-15には、2007年の調査時点における「就職や将来のことばかりが気になって今を生きていない、今が充実していない」という設問に対する回答結果を示した。上述した結果と類似の結果がみられており、「就職活動を行い、第一志望に内定」および「試験」の学生では、将来が気になり今が充実していないことは少なく、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」「就職活動を行い、未内定」「就職活動を行わず」の学生で「非常にある」「まあまあある」と回答した割合が高かった。



図表Ⅲ－15 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「就職や将来のことばかりが気になって今を生きていない、今が充実していないということがありますか」に対する回答

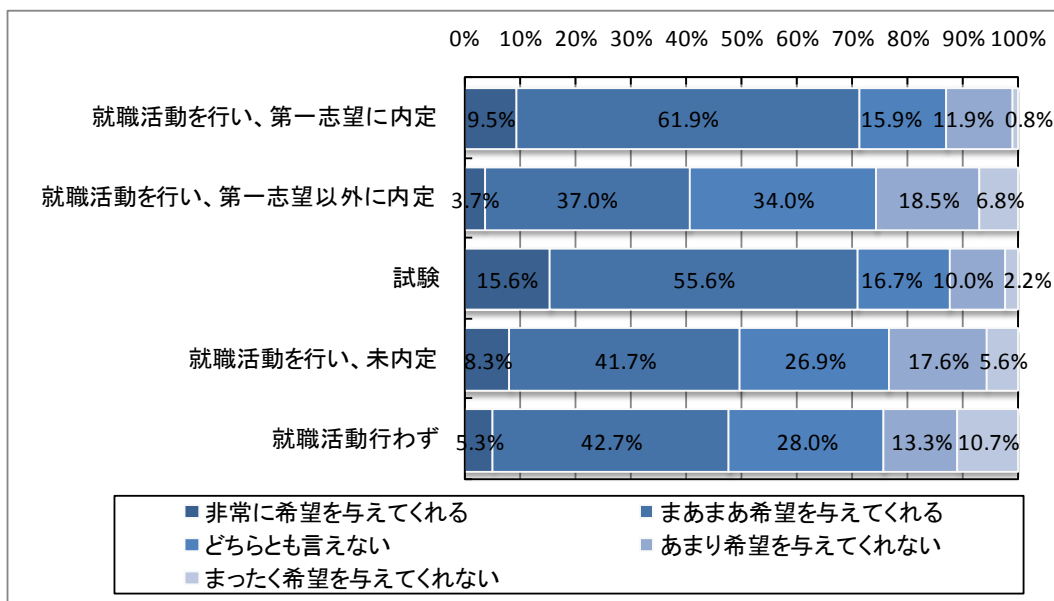
図表Ⅲ－16には、2007年の調査時点における「現在所属する大学や学部、学科・コースは、あなたの就職や未来に対して希望を与えてくれますか」という設問に対する回答結果を示した。「非常に希望を与えてくれる」と「まあまあ希望を与えてくれる」を合計した値は「就職活動を行い、第一志望に内定」および「試験」の学生で7割を超えており、自分の所属が希望を与えてくれると評価していた。一方、それ以外の「就職活動を行い、第一志望以外に内定」「就職活動を行い、未内定」「就職活動を行わず」の学生では、「非常に希望を与えてくれる」と「まあまあ希望を与えてくれる」を合計した値は5割程度であった。「就職活動を行い、第一志望に内定」「試験」の学生と、それ以外の学生では、自らの所属する大学・学部等に希望に大きな違いがあり、ここまでの結果もこの点に留意して解釈する必要があると思われる。

図表Ⅲ－17には、2007年の調査時点における「就職時の雇用形態に関する次の文章を読んで、あなたの考えにもっとも近いものを1つお知らせください」という設問に対する回答結果を示した。その結果、以下の点が示される。

- ①「就職活動を行い、第一志望に内定」の学生は、3年生時点で「正規雇用の従業員以外はまったく考えられない」と回答する割合が高く、「契約・派遣社員やアルバイト、フリーターなどになるかもしれない」と回答する割合が低かった。
- ②「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生も同様であり、正規雇用の従業員を考える割合が高く、「あまり考えていない」と回答する割合は低かった。
- ③「就職活動を行い、未内定」の学生は、「契約・派遣社員やアルバイト、フリーターなどになるかもしれない」と回答する割合が高かった。
- ④「就職活動を行わず」の学生は、正規雇用の従業員を考える割合が低く、「音楽や芸術、文学などの個人の創作的な仕事」を考える割合が高かった。また、「あまり考えてい

ない」と回答する割合も高かった。

⑤「試験」の学生は「その他」と回答する割合が高かった。



図表Ⅲ-16 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「現在所属する大学や学部、学科・コースは、あなたの就職や未来に対して希望を与えてくれますか」に対する回答

図表Ⅲ-17 就職活動結果別にみた、2007年調査(3年生時点)における「就職時の雇用形態に関して、あなたの考えにもっとも近いもの」に対する回答

	就職活動 行わず	試験	就職活動 を行い、 未内定	就職活動 を行い、 第一志望 以外に 内定	就職活動 を行い、 第一志望 に内定
正規雇用の従業員以外はまったく考えられない	45.3%	71.1%	64.8%	76.5%	81.7%
正規雇用の従業員を希望するが、就職活動の結果次第では、契約・派遣社員やアルバイト、フリーターなどになるかもしれない	-5.1	.2	-1.4	2.0	3.2
正規雇用の従業員を希望するが、専門知識を活かした仕事に就きたいので、はじめは正規雇用の従業員ではなくてもかまわない	20.0%	8.9%	20.4%	14.2%	7.9%
契約・派遣社員やアルバイト、フリーターがいい	1.6	-1.5	2.2	.1	-2.2
音楽や芸術、文学など個人の創作的な仕事を考えているので、会社などに就職する考えはない	12.0%	8.9%	7.4%	7.4%	4.8%
あまり考えていない	1.5	.5	-1	-1	-1.4
その他	1.3%	1.1%	.0%	.0%	.8%
	1.0	.8	-8	-1.1	.5
	10.7%	1.1%	3.7%	.6%	.8%
	4.6	-1.0	.7	-1.9	-1.5
	10.7%	5.6%	3.7%	1.2%	3.2%
	3.1	.8	-2	-2.2	-6
	.0%	3.3%	.0%	.0%	.8%
	-8	3.2	-1.0	-1.3	.1

※各セル下段は調整済み標準化残差。絶対値が1.96以上の場合に5%水準で有意。□統計的に有意なセルは網かけを

5. 実際の就職活動と就職活動結果との関連

図表Ⅲ-18は、3年生だった2007年の調査時点で、就職活動をいつ頃から始めようと考えていたかを、就職活動結果別に検討したものである。

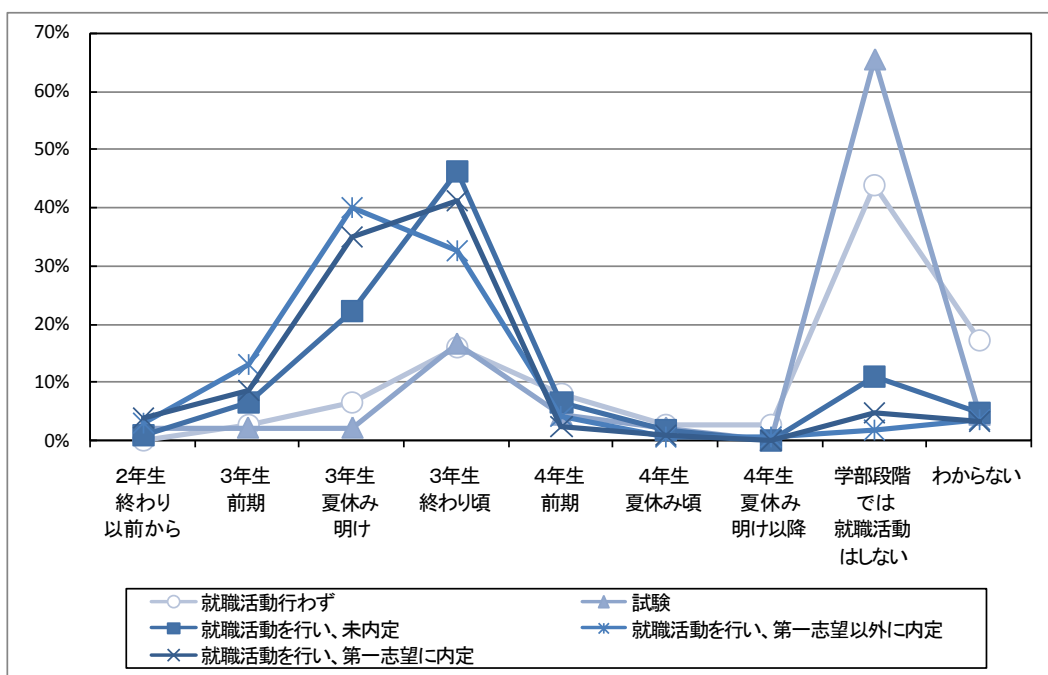
図から以下のことが示される。

①4年生になって「試験」を受けた学生は「学部段階では就職活動はしない」と回答した割合が多かった。

②「就職活動行わず」の学生も「学部段階では就職活動はしない」と回答した割合が多かったが、「わからない」と回答した学生も多かった。

③就職活動を行った学生の中では「就職活動を行い、未内定」の学生が就職活動をはじめようとする時期が遅い傾向があり、「3年生終わり頃」の学生が最も多かった。

④「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生と「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は、就職活動を始めようと考えている時期がほぼ同時期であったが、若干、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生の方が早い傾向が示された。



図表Ⅲ-18 就職活動結果別に見た、2007年調査(3年生時点)における「就職活動をいつ頃から始めようと考えていますか」に対する回答

図表Ⅲ-19は、実際に就職活動に向けてどのような努力を行ったかを表にしたものである。表から、「試験」を受けた学生は、就職活動を行った学生は全く異なっており、基本的には、図表Ⅲ-19にあるような項目は、大学院試験・公務員試験・教員試験を受ける学生とは異質の進路選択行動であると位置づけることができよう。

就職活動を行った学生の中では「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生が最も就職活動に向けて努力をした割合が高い。特に、「情報を収集する」「就職のための試験勉強をする」「多様な経験により人間的な魅力を高める」などでは、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生よりも熱心に努力をしたことがうかがえる。

それに対して、「就職活動を行い、第一志望に内定」は「ワークシートでキャリアプラン、自己分析をする」「面接のためにプレゼンテーション能力を高める」などでは、高い

割合を示しており、特に自己分析、プレゼンテーションに努力したと解釈できる結果となっている。

その点、「就職活動を行い、未内定」の学生は、「面接のためにプレゼンテーション能力を高める」が低くなっており、プレゼンテーションに向けた努力をするといった意識の低さが際だつ結果となった。

図表Ⅲ－19 就職活動結果別にみた「就職活動や試験のために、どのようなことに最も努力をしましたか」に対する回答

	試験	就職活動 を行い、 未内定	就職活動 を行い、 第一志望 以外に 内定	就職活動 を行い、 第一志望 に内定	sig.
情報を収集する	73.3%	92.6%	95.1%	87.3%	**
就職のための試験勉強をする	36.7%	58.3%	67.9%	59.5%	**
ワークシートでキャリアプラン、自己分析をする	7.8%	41.7%	65.4%	56.3%	**
人脈をひろげる	11.1%	14.8%	19.1%	19.0%	
知識や教養を深める	56.7%	44.4%	53.1%	51.6%	
多様な経験により人間的な魅力を高める	10.0%	25.0%	37.0%	32.5%	**
専門的な技能や技術をみがく	34.4%	25.0%	19.8%	21.4%	
資格や検定をとる	27.8%	32.4%	38.9%	34.1%	
面接のためにプレゼンテーション能力を高める	8.9%	15.7%	35.8%	36.5%	**
スタイルや容姿をよくする	3.3%	8.3%	14.2%	15.1%	**
体力をつける	6.7%	9.3%	10.5%	10.3%	
その他	2.2%	.0%	.6%	.8%	
特にない	15.6%	2.8%	1.9%	6.3%	**

※残差分析の結果、5%水準で有意に特徴的なセルに網かけを行った。さらに、統計的に有意に割合が小さいセルは下線、有意に割合が大きいセルは太字とした。

図表Ⅲ－20には、就職活動や試験に向けて最も重視したことは何かを表にしたものである。「試験」を受けた学生にとって、図表Ⅲ－19と同様、図表Ⅲ－20は基本的に就職活動を行う学生が重視する項目群であると受け取られており、「特にない」という回答が際だつて多かった。

就職活動を行った学生の中では「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生が多くのことを重視する傾向がみられた。「収入」「労働時間」「仕事の内容」「事業や雇用の安定性」「知名度やブランド」「勤務地」「福利厚生 of 充実」などを重視する割合が最も高かった。

一方、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生も、上記の事柄を重視しない訳ではないが、特に顕著に重視していたのが「職場の雰囲気」と「業績・規模」であった。

「就職活動を行い、未内定」の学生は「通勤の便」を重視しているのが、特徴であった。

図表Ⅲ-20 就職活動結果別にみた「就職活動や試験のために、最も重視したことは何ですか」に対する回答

	試験	就職活動 を行い、 未内定	就職活動 を行い、 第一志望 以外に 内定	就職活動 を行い、 第一志望 に内定	sig
収入	<u>21.1%</u>	50.0%	56.8%	54.8%	**
労働時間	<u>18.9%</u>	44.4%	45.7%	40.5%	**
通勤の便	<u>17.8%</u>	45.4%	35.8%	29.4%	**
仕事の内容	<u>37.8%</u>	75.0%	85.2%	77.0%	**
職場の雰囲気	<u>11.1%</u>	55.6%	59.3%	64.3%	**
仕事の社会的意義	16.7%	21.3%	27.8%	34.9%	
事業や雇用の安定性	<u>18.9%</u>	37.0%	49.4%	46.8%	**
将来性	33.3%	34.3%	42.0%	51.6%	
専門的な知識や技術をいかせること	37.8%	29.6%	24.1%	31.7%	
能力を高める機会があること	34.4%	37.0%	35.8%	34.1%	
自分を生かすこと	31.1%	41.7%	38.9%	42.9%	
知名度やブランド	<u>3.3%</u>	12.0%	24.1%	17.5%	**
勤務地	<u>21.1%</u>	51.9%	56.8%	52.4%	**
業績・規模	<u>10.0%</u>	19.4%	29.6%	36.5%	**
福利厚生充実	<u>13.3%</u>	35.2%	48.1%	42.1%	**
育児休暇や介護休暇などの家庭配慮の制度	<u>7.8%</u>	18.5%	25.3%	25.4%	**
特にない	21.1%	2.8%	<u>1.2%</u>	<u>.8%</u>	**

※残差分析の結果、5%水準で有意に特徴的なセルに網かけを行った。さらに、統計的に有意に割合が小さいセルは下線、有意に割合が大きいセルは太字とした。

6. 結果のまとめ

本節の結果から、3年生時点の回答と就職活動結果の関連は以下のとおり整理される。

①3年生時点の大学進学理由と就職活動結果との関連については、概して、就職活動を行わなかった学生は、3年生時点における大学進学理由が不明確である一方、試験を受けた学生は専門知識や技術の習得であると考えていた。

また、大学で学ぶ理由について、概して、就職活動を行わなかった学生は非対人関係志向、試験を受けた学生は勉学志向、就職活動を行った学生は対人関係志向を3年生時点でもっていたことがうかがえた。ただし、同じく就職活動を行った学生でも、第一志望に内定しなかった学生では非勉学志向を3年生時点でもっていた。

②3年生時点の大学生活と就職活動結果との関連については、概して、就職活動を行った学生はコミュニケーション能力・問題解決能力・プレゼンテーション能力・協調性が授業外で身についたと3年生時点で考えていた。また、就職活動を行った学生は、3年生時点で同性・異性の友達との交際およびアルバイトに時間を費やしており、それらがサークル活動、コンパ・懇親会ともども、自分の将来や人生設計に貢献したと考えていた。

ただし、大学での授業に対する評価などで、第一志望に内定したか否かは分かっていた。すなわち、第一志望以外に内定した学生は授業で学力が身についたと考える度合いが低く、アルバイトの時間が特に多く勉強に費やす時間が少なかった。一方、第一志望に内定を取得した学生（および試験を受けた学生）は大学での授業や勉強が貢献したと3年生時点で

回答しており、3年生時点で大学生生活が充実していると回答していた。

なお、就職活動をしなかった学生も授業で学力が身についたと考える度合いが低く、ゲームに費やす時間が多いことが示された。また、就職活動を行ったが未内定だった学生ともども大学生生活が充実していると回答した割合が低かった。

③3年生時点のキャリア関連活動と就職活動結果との関連については、3年生調査時点までのインターンシップへの参加と就職活動結果が関連しており、第一志望に内定を取得した学生>第一志望外に内定を取得した学生>未内定の学生の順にインターンシップへの参加の割合が多かった。試験を受けた学生はインターンシップに参加した割合は低かったが、自分に影響を及ぼしていると回答した割合は高かった。

その他のキャリア関連活動では、就職活動を行い未内定の学生では、単位の出るキャリア形成科目を受講したと回答する学生が多かった。就職が難しい学生に対して、大学側から単位の出るキャリア形成科目を受講させるなどの取り組みを行っている様子が推測される結果であった。その他、試験を受けた学生または就職活動を行わなかった学生は3年生時点でキャリア関連の取り組みにあまり参加していなかった。

④3年生時点のキャリア意識と就職活動結果との関連については、概して第一志望に内定を取得した学生および試験を受けた学生は、3年生時点で将来の見通しをもっていたものの統計的には有意ではなかった。

ただし、就職活動を行って第一志望に内定した学生は第一志望以外に内定した学生に比べて、3年生時点における将来設計があると回答していた。また、将来に希望がもてないといった考え方を就職活動を行ったが未内定だった学生および就職活動を行わなかった学生はもっていた。

また、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」「就職活動を行い、未内定」「就職活動を行わず」の学生は、3年生時点で就職や将来のことが気になって今が充実していないと回答する割合が高かった。その背景は、自らの所属する大学・学部等が希望を与えてくれると回答する割合が低いことが関連していることが推測される。なお、関連して、就職活動を行って第一志望に内定した学生、第一志望以外に内定した学生、未内定の学生では3年生時点における正規就労への志向性が異なっていたことも示された。

⑤実際の就職活動と就職活動結果については、就職活動を行って第一志望以外に内定した学生の方が就職活動を早くはじめようと考えていた。また、情報収集、就職のための勉強、多様な経験などをはじめ熱心に就職活動に取り組んでおり、「収入」「労働時間」「仕事の内容」など多くのことを考慮する傾向があった。一方、就職活動を行って第一志望に内定した学生は自己分析やプレゼンテーション能力に他の学生よりも努力していた。

IV. 自己意識、友人関係、社会意識との関連

1. 自己意識

今回の調査では、調査回答者に自分の特徴について26項目でたずねた。具体的には、図IV-1に示した26項目を提示し、「次の特徴26項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答えください。他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自信をどのように思っているかをありのままにお答えください」という教示文で、「1：あてはまらない」～「5：あてはまる」の5件法で回答を求めた。なお、この26項目は、山本・松井・山成(1982)の尺度項目であり、心理学研究でよく用いられる項目であった。

図表IV-1には、就職活動結果別にみた自己観26項目の平均値を示した。表から以下のことが示される。

①概して、就職活動を行い内定を取得した学生と、それ以外の学生で傾向が分かっていた。就職活動を行い内定を取得した学生は、「社交能力に自信がある」「同年配の異性と楽しく話ができる」「体力・運動能力に自信がある」「自由に使えるお金が多い」の評価が他の学生よりも高かった。

②ただし、第一志望に内定を取得した学生と第一志望以外に内定を取得した学生では若干異なる面もあり、第一志望に内定を取得した学生は「交際範囲が広い」「自分の生き方に自信がある」「経済的な面で自信がある」「社会的に評判のよい大学に在籍している」といった面について評価が高かった。一方、第一志望以外に内定を取得した学生は「人に対して思いやりがある」「おおらかな人柄である」の面で評価が高かった。

③その他、「就職活動行わず」の学生は「個性的な生き方をしている」の面で評価が高かった。同様に、「試験」を受けた学生は「社会的に評判のよい大学に在籍している」「有名な大学に在籍している」、「就職活動を行い、未内定」だった学生は「おおらかな人柄である」などの面で評価が高かった。

これら26項目は「社交」「優しさ」「生き方」「まじめさ」「スポーツ能力」「経済力」「学校の評判」「容貌」「知性」の9つの項目群に分けられるので、各項目群ごとに合計得点を求めた。各項目群間で比較ができるように項目数で割って1点～5点の尺度に合わせた後、平均値との差を求めて図示したのが図表IV-2である。図から、就職活動結果によって統計的に有意に差がみられるのは、おもに「社交」「優しさ」「経済力」「学校の評判」の項目群であることが分かる。

さらに、図表IV-2からは以下のことが示される。

①「社交」および「経済力」は「就職活動を行い、第一志望に内定」および「就職活動を行い、第一志望以外に内定」で高く、それ以外で低い。

②「優しさ」は「就職活動を行い、第一志望以外に内定」で高く、それ以外で平均値付近か低い。

③「学校の評判」は「試験」および「就職活動を行い、第一志望に内定」で高く、「就職活動行わず」および「就職活動を行い、未内定」で低い。

		就職 活動 行わ ず	試験	就職 活動 を行 い、 未内 定	就職 活動 を行 い、 第一 志望 以外 に内 定	就職 活動 を行 い、 第一 志望 に内 定	sig.
社交	社交能力に自信がある	<u>2.40</u>	<u>2.48</u>	2.67	3.00	3.08	**
	交際範囲が広い	<u>2.35</u>	<u>2.41</u>	2.54	2.65	2.89	*
	同年配の異性と楽しく話ができる	<u>3.15</u>	3.27	<u>2.94</u>	3.37	3.64	**
優しさ	人に対して思いやりがある	<u>3.43</u>	3.58	3.60	3.85	3.71	*
	人に対して寛大である	3.43	3.46	3.55	3.73	3.49	
	おおらかな人柄である	3.45	<u>3.13</u>	3.56	3.62	3.44	**
生き方	自分の生き方に自信がある	<u>2.77</u>	2.90	<u>2.79</u>	2.92	3.27	**
	個性的な生き方をしている	3.60	<u>3.03</u>	3.21	3.22	3.37	*
	自分に自信がある	2.68	2.58	2.64	2.70	2.94	
まじめさ	きちょうめんな性格である	3.19	3.27	3.14	3.29	3.52	
	自分に厳しい	2.89	2.77	2.73	2.77	2.83	
	責任感が強い	3.47	3.44	3.44	3.55	3.71	
スポーツ能力	体力・運動能力に自信がある	<u>2.31</u>	2.64	2.57	2.83	2.86	*
	運動神経が発達している	2.24	2.53	2.37	2.57	2.47	
	スポーツマンタイプに見える	1.83	2.22	2.07	2.25	2.30	
	得意なスポーツがある	2.57	3.12	2.81	2.91	3.00	
経済力	自由に使えるお金が多い	<u>2.40</u>	2.51	<u>2.36</u>	2.85	2.87	**
	経済的な面で自信がある	<u>2.01</u>	<u>2.12</u>	<u>2.14</u>	2.39	2.55	**
学校の評判	社会的に評判のよい大学に在籍してい	<u>2.75</u>	3.29	<u>2.59</u>	2.94	3.17	**
	有名な大学に在籍している	2.68	3.24	<u>2.52</u>	2.94	2.95	**
容貌	目鼻立ちが整っている	2.28	2.44	2.30	2.35	2.57	
	自分の外見に自信がある	2.20	2.26	2.22	2.31	2.47	
	自分の顔気に入っているところがある	2.37	2.58	2.75	2.59	2.78	
知性	知的能力に自信がある	2.92	3.02	2.82	2.99	2.94	
	人よりいろいろなことを知っている	2.99	2.90	3.09	2.99	3.06	
	頭の回転が速い	2.83	2.80	2.80	2.95	3.10	

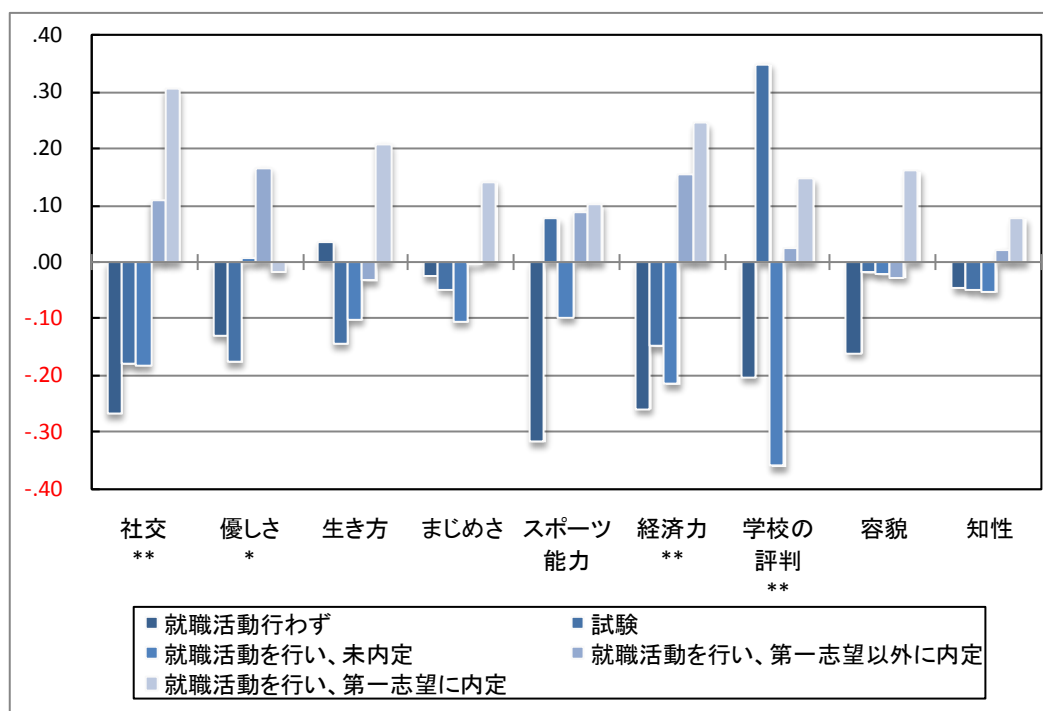
** p<.01 * p<.05

数値は「1:あてはまらない」～「5:あてはまる」の5件法による評定の平均値。

多重比較の結果をもとに、他群より高い値を網かけ太字、低い値を下線で表記した。

図表IV-1 就職活動結果別にみた自己認識(各項目ごとの検討)

図表IV-3には、「あなたは、他の学生からどのように見られていると思いますか」という教示文で12項目について評価を求めた結果である。表から、概して「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生の値が高く、「就職活動を行わず」の学生の値が低いことが示される。特に、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は、「明るい人」「元気な人」「頼りになる人」「どんなことにも一生懸命である人」「失敗してもくよくよしない人」「仲間の人気者」という面で評価が高かった。



図表IV-2 就職活動結果別にみた自己認識(分野ごとの検討)

図表IV-3 就職活動結果別にみた

「他の学生からどのように見られていると思いますか」に対する回答

	就職活動行わず	試験	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、第一志望以外に内定	就職活動を行い、第一志望に内定	sig.
明るい人	<u>2.72</u>	2.87	3.08	3.27	3.43	**
カッコいい人	2.12	2.36	2.34	2.34	2.49	
元気な人	<u>2.52</u>	2.72	2.86	3.06	3.15	**
勉強ができる人	2.97	3.29	3.02	3.09	3.30	
やさしい人	<u>3.12</u>	3.44	3.44	3.68	3.66	**
頼りになる人	<u>2.87</u>	3.07	3.00	3.26	3.50	**
運動ができる人	2.17	2.33	2.32	2.55	2.54	
教員に好かれている人	2.56	2.86	2.80	2.81	2.95	
人よりすぐれたところがある人	2.87	2.84	2.94	3.02	3.01	
どんなことにも一生懸命である	<u>2.71</u>	3.10	3.04	3.15	3.25	*
失敗してもくよくよしない人	<u>2.55</u>	2.82	2.84	2.99	3.02	*
仲間の人気者	<u>2.52</u>	2.62	2.58	2.85	2.93	**

** p<.01 * p<.05

数値は「1:あてはまらない」～「5:あてはまる」の5件法による評定の平多重比較の結果をもとに、他群より高い値を網かけ太字、低い値を下線で表記した。

なお、図表IV-1では「自由に使えるお金が多い」「経済的な面で自信がある」などの「経済力」などの面で、「就職活動を行い、第一志望に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定の学生の値が大きかった。そこで、現在の収入状況について、就職活動結果別に集計したところ、図表IV-4のような結果が示された。なお、3年生調査時点で「自宅」から通学の学生とそれ以外の学生では収入状況に著しい差がみられたので別に集計した。

図表IV-4から、経済力の面での差は、仕送りその他の収入の差ではなく、もっぱら自らがアルバイトでどの程度収入を得ているかと密接に関わっていることが示される。「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生および「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は、アルバイトでの収入が多い。ただし、「就職活動を行い、未内定」の学生は、仕送りやアルバイトの金額が低く、さらにその背景の検討を要する結果となった。

図表IV-4 就職活動結果別にみた
収入状況に関する回答(自宅通学、その他別)

	就職活動 行わず	試験	就職活動 を行い、 未内定	就職活動 を行い、 第一志 望	就職活動 を行い、 第一志 望	sig.
【自宅から通学の学生】						
仕送り	1.7万円	1.5万円	1.1万円	0.7万円	0.8万円	
アルバイト	3.7万円	3.9万円	3.6万円	5.5万円	5.2万円	**
奨学金	2.0万円	1.9万円	1.8万円	1.6万円	1.9万円	
その他	0.0万円	0.1万円	0.5万円	0.1万円	0.1万円	
上記合計	7.5万円	7.4万円	6.9万円	7.9万円	8.0万円	
【下宿・寮から通学の学生】						
仕送り	6.2万円	6.8万円	4.9万円	6.7万円	6.0万円	
アルバイト	2.1万円	2.5万円	1.2万円	3.6万円	3.7万円	**
奨学金	2.2万円	2.6万円	2.7万円	2.7万円	2.6万円	
その他	0.1万円	0.3万円	0.1万円	0.1万円	0.2万円	
上記合計	10.6万円	12.1万円	8.9万円	13.1万円	12.5万円	**

** p<.01 * p<.05

2. 友人関係

前節で、就職活動の結果と社交能力および交友関係に関連がみられたが、本節ではさらに友人関係を掘り下げて検討する。

図IV-5は、就職活動結果別に「日頃の学生生活で悩みをよく相談する人」の評定を求めた結果である。表から以下の点が示される。

①「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は「同じ大学の友達」「同じ大学の先輩・後輩」「恋人・異性の友人」に悩みを相談する割合が他の学生に比べて高い。

②「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は「別の大学の知り合い」「アルバイト先の知り合い」に悩みを相談する割合が他の学生に比べて高い。

③「就職活動行わず」および「試験」の学生は「日頃、人に悩みを話さない」割合が他の学生に比べて高い。

図表IV-5 就職活動結果別にみた「日頃の学生生活で悩みをよく相談する人」

	就職活動行わず	試験	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、第一志望以外に内定	就職活動を行い、第一志望に内定	sig.
同じ大学の友達	41.3%	40.0%	52.8%	45.7%	67.5%	**
同じ大学の先輩・後輩	14.7%	10.0%	3.7%	6.2%	14.3%	*
別の大学の知り合い	4.0%	3.3%	7.4%	13.0%	10.3%	*
大学内や大学間のサークルの知り合い	4.0%	7.8%	8.3%	14.8%	12.7%	
アルバイト先の知り合い	5.3%	3.3%	4.6%	16.0%	11.1%	**
恋人・異性の友人	28.0%	26.7%	14.8%	30.9%	37.3%	**
その他の友人	21.3%	14.4%	15.7%	25.9%	16.7%	
大学の教員	10.7%	8.9%	5.6%	3.7%	9.5%	
親、兄弟	24.0%	18.9%	30.6%	27.2%	34.9%	
日頃、人に悩みを話さない	30.7%	28.9%	20.4%	18.5%	12.7%	**

** p<.01 * p<.05

数値は「1:あてはまらない」～「5:あてはまる」の5件法による評定の平均値。

残差分析の結果、統計的に有意に値が高いセルを網かけ太字、統計的に有意に値が低いセルを下線で表記した。

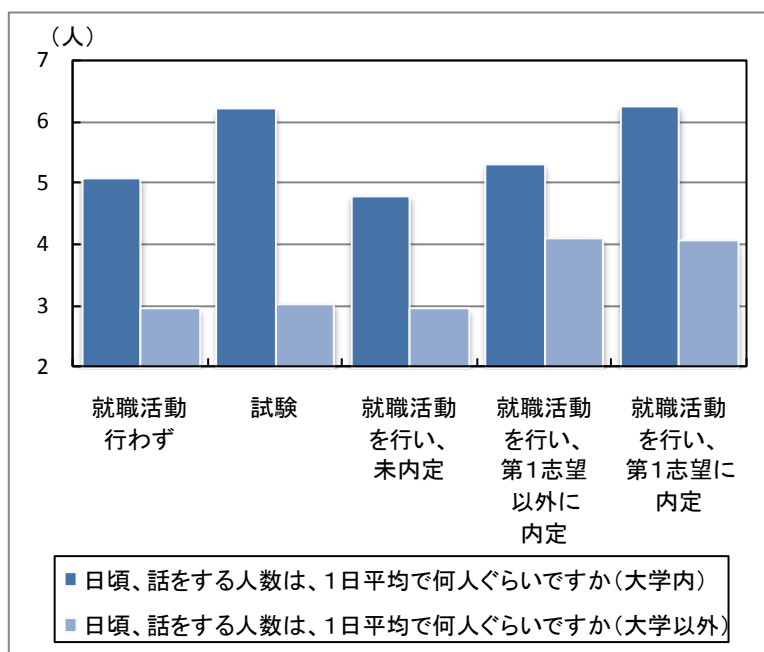
図表IV-6は、日頃、話をする人数を1日平均で、大学内・大学以外に分けてたずねた結果である。「大学内」「大学外」ともに統計的に有意な差がみられた。

「大学内」については、「試験」「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生が、話をする人数を他の学生に比べて多く回答していた。また、「大学外」については「就職活動を行い、第一志望以外に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生が他の学生に比べて多く回答していた。

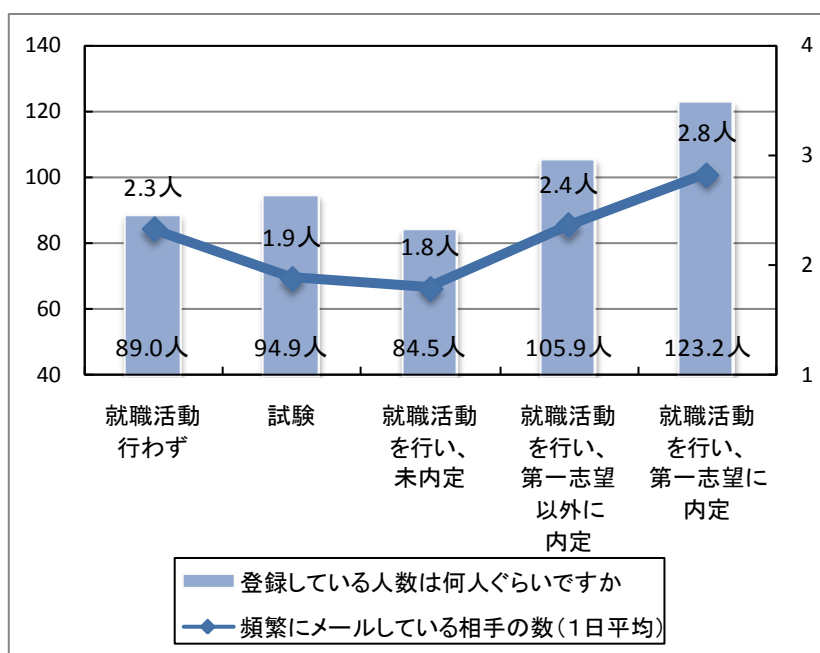
図表IV-7は、携帯メールの登録人数および頻繁にメールする相手の数（1日平均）を就職活動結果別に集計した結果である。日頃、話をする人数を1日平均で、大学内・大学以外に分けてたずねた結果である。登録人数、頻繁にメールをする人数ともに統計的に有意な差がみられた。

登録人数は、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は「就職活動を行い、未内定」の学生に比べて多かった。

頻繁にメールをする人数は、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は「就職活動を行い、未内定」の学生および「試験」の学生に比べて多かった。



図表IV-6 就職活動結果別にみた日頃、話をする人数

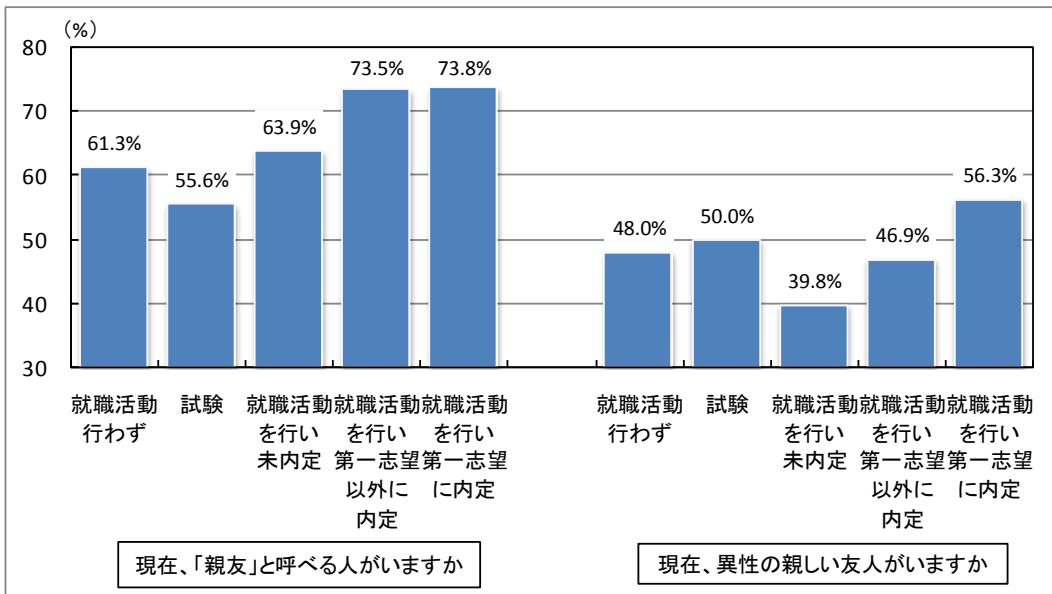


図表IV-7 就職活動結果別にみた、
携帯メールの登録人数および頻繁にメールする相手(1日平均)

図表IV-8は、「親友」と呼べる人、異性の親しい友人の有無を就職活動結果別に集計した結果である。

現在、「親友」と呼べる人がいるか否かについては、統計的に有意な違いがみられており、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は「いる」と回答する割合が高かった。また、「試験」を受けた学生は「いる」と回答する割合が低かった。

異性の親しい友人の有無については、統計的に有意な違いはみられなかったが、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は「いる」と回答する割合が高く、「就職活動を行い、未内定」の学生は「いる」と回答する割合が低かった。



図表IV-8 就職活動結果別にみた、「親友」と呼べる人、異性の親しい友人の有無

3. 社会意識

図IV-9には、就職活動結果別にみた社会意識の結果を示した。統計的に有意な結果は、「上下関係などわずらわしいだけだ」「自分個人を主張するよりも、上司や先輩をたてるべきだ」「世の中の秩序を守るためには、上下関係は無くってはならない」の3項目でみられた。

「上下関係などわずらわしいだけだ」では、「就職活動行わず」の学生が最も値が高く、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は値が低かった。

「自分個人を主張するよりも、上司や先輩をたてるべきだ」では、「就職活動を行い、第一志望に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生が値が高く、「就職活動行わず」の学生の値が低かった。

「世の中の秩序を守るためには、上下関係は無くってはならない」では、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生が値が高く、「就職活動を行い、未内定」の学生の値が低かった。

なお、これらの項目は、加藤・加藤（1987）の社会意識尺度の一部を使用した。

図表IV-9 就職活動結果別にみた社会意識①(項目ごとの検討)

	就職活動行わず	試験	就職活動を行い未定	就職活動を行い第一志望以外に内定	就職活動を行い第一志望に内定	sig.
1 上下関係などわずらわしいだけだ	3.20	3.03	2.86	2.88	<u>2.63</u> *	
2 学生時代には政治問題などを考えるより、スポーツやレジャーを楽しむ方が	3.19	3.12	2.99	3.24	3.17	
3 自分の生活上の不満や要求は、マスコミなどを利用し率直に表現すべきだ	2.77	2.64	2.69	2.75	2.66	
4 たとえまちがっていると思っても、上司や先輩の言いつけには服従する	2.67	2.83	2.80	2.92	2.93	
5 社会のためにつくそうなどと考えても、孤独感や挫折感を味わうだけだ	2.80	2.70	2.74	2.65	2.56	
6 政治や社会の問題よりファッションやレジャーに興味がある	3.01	3.18	3.15	3.23	3.21	
7 私たちの努力で今の社会をよりよくなっていきたい	3.27	3.29	3.40	3.48	3.47	
8 自分個人を主張するよりも、上司や先輩をたてるべきだ	<u>2.75</u>	2.99	2.97	3.25	3.11 **	
9 世の中の秩序を守るためには、上下関係は無くしてはならない	3.39	3.40	<u>3.33</u>	3.62	3.66 *	
10 芸術も日常生活もすべて「いいムード」であることが何より大事だ	3.60	3.54	3.41	3.63	3.65	
11 政治をよくするためには、もっと革新的な勢力を強くしなければならない	3.39	3.24	3.16	3.17	3.22	
12 必要な時には上司・先輩・後輩の区別なく、自分が納得いくまで議論する	3.53	3.41	3.34	3.39	3.46	
13 習慣とか伝統などは私にはどうでもいい	2.68	2.82	2.61	2.59	2.56	
14 社会の進歩に貢献する仕事につくことにこそ価値がある	3.07	3.18	3.06	3.23	3.25	

** p<.01 * p<.05

数値は「1:あてはまらない」～「5:あてはまる」の5件法による評定の平均値。

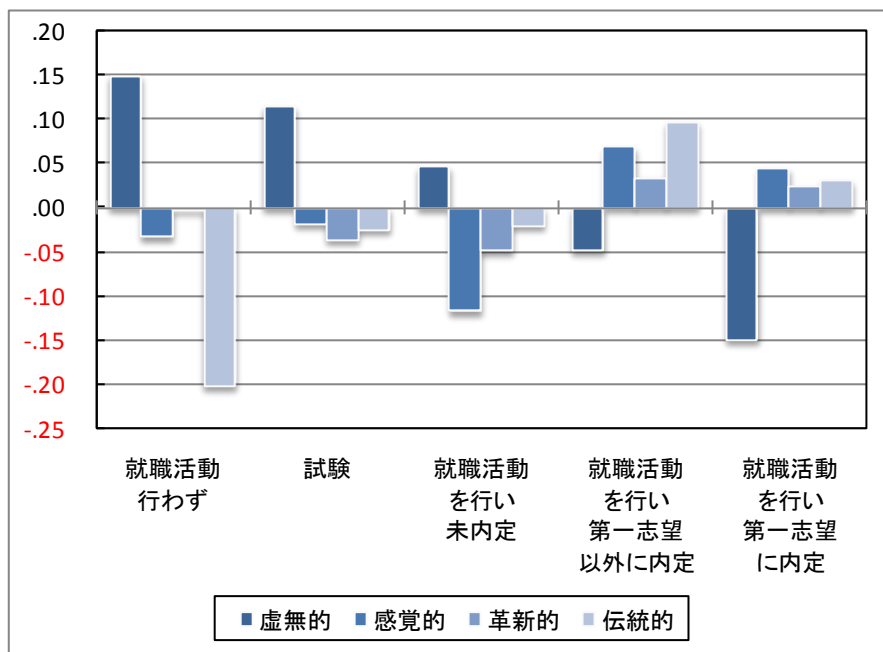
多重比較の結果をもとに、他群より高い値を網かけ太字、低い値を下線で表記した。

図表IV-9は、「虚無的」「感覚的」「革新的」「伝統的」の4つの社会意識に分かれているので、合計得点を求めて集計を行った。なお、「虚無的」は項目番号1,5,9(逆転),13、「感覚的」は項目番号2,6,10、「革新的」は項目番号3,7,11,14、「伝統的」は4,8,12(逆転)から構成されていた。

図表IV-10は、各領域間で比較ができるように項目数で割って1点～5点の尺度に合わせた後、平均値との差を求めたものを図示した結果である。「就職活動行わず」の学生で「虚無的」な社会意識が強く、「伝統的」な社会意識が弱いことが示される。また、「試験」を受けた学生にもその傾向は強い。

一方で、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は「虚無的」な社会意識が弱く、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生は「伝統的」な社会意識が強いことも示される。

「虚無的」社会意識を構成する3つの項目のうち2つは上下関係に関するものであり、結果的にいわゆる「上下関係」をどのように考えるかによって、就職活動を行った学生とそうでない学生の違いが出てくると考察される。



図表IV-10 就職活動結果別にみた社会意識②(領域ごとの検討)

4. 結果のまとめ

本節の結果から、自己意識、友人関係、社会意識に関しては以下のとおり整理される。

①自己意識については、「社交」および「経済力」は、「就職活動を行い、第一志望に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生が平均値以上であり、それ以外の学生は平均値以下であった。また、「優しさ」は、「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生が平均値以上であった。さらに「学校の評判」は「試験」を受けた学生および「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生が平均値以上であった。なお、①で言う「経済力」は経済的な格差というよりは、本人がどの程度、アルバイト収入を得ているかということと関連していた。

②友人関係については、「就職活動を行い、第一志望に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生が、大学外で話をする人数、頻繁に携帯メールをする人数、携帯メールの登録人数が多く、親友および親しい異性がいると回答する割合も高かった。ただし、悩みをよく相談する相手は、第一志望に内定した学生は同じ大学の友達・先輩・後輩の割合が高いのに対して、第一志望以外に内定した学生は別の大学の知り合い、アルバイト先の知り合いである割合が高かった。「就職活動行わず」「試験」の学生は日頃悩みを人に話さないと回答する割合が高かったが、「試験」の学生は大学内で話をする人数は多かった。就職活動を行い未内定の学生は異性の親しい友人がいると回答した割合が低く、悩みを相談する相手として恋人・異性の友人を挙げた割合も低かった。

③社会意識については、いわゆる「上下関係」をどのように考えるかによって、就職活動を行った学生とそうでない学生の違いが出ており、「就職活動を行い、第一志望に内定」「就職活動を行い、第一志望以外に内定」の学生は「上下関係」に肯定的であり、「就職活動行わず」「試験」の学生は「上下関係」に否定的であった。

V. 就職活動結果別にみた学生の特徴について

本報告書では、2008年調査時点で4年生であった学生の就職活動状況について整理し、概して言えば、4年生の11月時点で内定を取得して就職活動を終了した学生は、就職活動の取りかかりが早く、かつ活動量が多いということを示した。また、内定を取得して就職活動を終了した学生間で比較した場合には、就職活動の取りかかりが早くかつ活動量が多いほど、より規模の大きな企業からより早く内定を取得できたということを示した（ただし、第一志望に内定した場合は就職活動量が少なかった）。

また、報告書中盤以降では、ちょうど1年前、3年生だった2007年時点の調査結果との比較検討を行った。分析を行うにあたっては、①就職活動を行ったか否か、②内定を獲得したか否か、③内定先が第一志望であったか否かで、2008年調査に回答した大学4年生の就職活動結果が大まかに分類して検討した。

その結果を集約したものが、図表V-1である。

本研究で就職活動結果別にみた学生の結果から、以下の3点が指摘できる。

第一に、大学生の就職活動結果は、大まかに「対人志向」と「勉学志向」の2つの軸から整理することができる。図表V-2に示したとおり、「就職活動を行い、第一志望に内定」した学生は、全般的に、対人志向性と勉学志向性の両面が高い。対人志向性が高いという点では「就職活動を行い、第一志望以外に内定」した学生も同等であるが、勉学志向性が低く、この点が両者を明確に分ける基準となっている。

また、一般に、対人志向的でない学生は、就職活動のみを基準に考えた場合には低く評価される場合もあるが、強い勉学志向性をもっていることが多く、そうした基礎的な学力や専門知識への志向性を活かして次のステップに進む進路選択を行うことが多いようであった。ただし、図表V-2に示した図からは「対人志向」と「勉学志向」は両面を兼ね備えた方が、将来の進路の幅を広げるという意味ではやはり望ましいと考えられ、こうした観点から実践的な示唆を導くことができると思われる。

第二に、考慮すべきは「就職活動を行い、未内定」だった学生である。4年生の11月時点で未内定の学生達は、就職活動への動き出しが若干遅い傾向がある（図表III-18参照）。ただし、就職活動を行い内定を取得した学生達と比べて極端に動き出しが遅い訳ではない。また、未内定の学生達はいわゆる知名度の高い大学に在籍しておらず、そのため自らの大学・学部で希望をもてないと考えている面がある（図表IV-2参照）。そのため将来に希望がもてないと感じている学生もいる（図表III-14参照）。実際、こうした大学属性による不利を補うべく大学側が単位を出して行うキャリア形成支援科目も受講している（図表III-11）しかし、第一志望以外ではあっても何らかの形で内定を得た学生と比べて極端に希望がもてない大学・学部で在籍している訳ではない（図表III-16）。むしろ、最も問題になるのは、もともと大らかな人柄であることもあってか（図表IV-1）、アルバイトで多くの収入を得たり（図表IV-4）、交友範囲を広げることにあまり関心をもっていないようであり（図表IV-6、図表IV-7参照）、結果的に同年配の異性と楽しく話をできるとは考えておらず（図表IV-3参照）異性の親しい友人も少ない（図表IV-8参照）といった全般的な消極性であるように思われる。

図表V-1 就職活動結果別にみた学生の特徴

	就職活動行わず	試験	就職活動を行い、未内定	就職活動を行い、第一志望以外に内	就職活動を行い、第一志望に内定
大学進学理由【3年生時】	特に理由はない 家族がすすめた	専門知識、技術の習得		青春を楽しむ	
大学で学ぶ理由【3年生時】		なりたい職業や資格のため 高い専門性を身につけたいから 特に学びたいものがあるから		人間関係が豊かになる なんとなく勉強しているだけだ	いろいろな人と出会える 多くの人と交わることができる 新たな友人を作ることができる
大学で身についた能力・事柄【3年生時】		基礎的な学力、学習に対するやる気が身についた	基礎的な学力、学習に対するやる気が身についた	コミュニケーション能力・問題解決能力・プレゼンテーション能力・協調性が授業外で身につ	基礎的な学力、学習に対するやる気が身についた コミュニケーション能力・問題解決能力・プレゼンテーション能力・協調性が授業外で身につ
過去1年間に費やした時間【3年生時】	ゲームをする時間が多い			同性・異性の友達との交際およびアルバイトに費やす時間が多い 授業に関する勉強をする時間が少な	同性・異性の友達との交際およびアルバイト
過去1年間の活動が将来や人生設計にどの程度、貢献したか【3年生時】		大学で授業や実験に参加する」および「授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をす			大学で授業や実験に参加する」および「授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をす
将来設計がある【3年生時】				同性・異性の友人との交際、サークル活動、コンパ・懇親会、アルバイトなどが自分の将来や人生設計に貢献したあてはまらない	同性・異性の友人との交際、サークル活動、コンパ・懇親会、アルバイトなどが自分の将来や人生設計に貢献したあてはまる
将来に希望がもてる	あてはまらない		あてはまらない		あてはまる
自己意識【4年生時】	個性的な生き方をしている	評判のよい大学に在籍している 有名な大学に在籍している	おおらかな人柄がある	社交能力に自信がある 異性と楽しく話ができる 人に対して思いやりがある おおらかな人柄がある 体力・運動能力に自信がある 自由に使えるお金が多い	社交能力に自信がある 異性と楽しく話ができる 自分の生き方に自信がある 体力・運動能力に自信がある 自由に使えるお金が多い 経済的な面で自信がある 評判のよい大学に在籍している
他の学生からどのようにみられているか【4年生時】					明るい人 元気な人 頼りになる人 仲間の人気者
アルバイト収入【4年生時】			少ない	多い	多い
日頃悩みを話す相手	日頃、人に悩みを話さない	日頃、人に悩みを話さない		別の大学の知り合い アルバイト先の知り合い	同じ大学の友達 同じ大学の先輩・後輩 恋人・異性の友人
社会意識「上下関係」	否定的	否定的		肯定的	肯定的

		対人志向	
		高い	低い
勉学志向	高い	第一志望 内定	試験
	低い	第一志望 以外に 内定	未内定・ 就職活動 行わず

図表V-2 対人志向-勉学志向の軸で整理した就職活動結果

「就職活動を行い、未内定」の学生の消極性は、アルバイトなどで大学外の人間関係を体験すること、交友関係を広げ異性の親しい友人を作ることなど、本人にとって異質な人間関係を体験することによって解消されていく面もあると考えられる。また、対人志向的ではないという点で共通する面のある「試験」による進路選択を行う学生を念頭に置けば、よりいっそう勉学に励むといったことも1つの策となる可能性もある。いずれにせよ、これらの要因は互いに循環的な関係にあるため、どこかで打開策を見つけることによって、事態を好転させることができると考えられる。

第三に、そもそも「就職活動行わず」の学生も課題となる。「就職活動行わず」の学生は、もともと就職でも試験でもない進路選択を模索している面があり、何らかの形で芸術的な職業を念頭においている場合がある（図表Ⅲ-17参照）。それが、自分は個性的な生き方をしているという評価につながっている面がある（図表Ⅳ-1参照）。ただし、一方で、交際範囲は狭く（図表Ⅳ-3参照）、対人志向的な面は少ない（図表Ⅳ-3参照）。また、日頃、人に悩みを話すということも少ない（図表Ⅳ-5参照）。虚無的な社会意識が強く（図表Ⅳ-10）、将来に希望が持てないと感じていることも特徴であり（図表Ⅲ-14）、それは他の学生に比べてゲームに費やす時間が長いことにも象徴されている（図表Ⅲ-5参照）。

「就職活動行わず」の学生は非対人志向であるという点では「試験」で進路選択をする学生と類似した面が多々あり、より勉学に打ち込むことによって「試験」の学生と同様の進路選択を行うことができる可能性がある。ただし、大学に進学した理由として最も重視していたものがないという回答も若干多かったことに象徴されるように、概して言えば、この学生達は将来についてあまり考えていないという点に問題があると推察される（図表Ⅲ-14、図表Ⅲ-17参照）。まずは、将来について考えることの重要性に気づかせ、何を当座の目標とするかを明確にすることが第一歩となる可能性が高いであろう。

最後に、本調査の結果では、ここで「対人志向」と呼んでいる友人を中心とした多面的な対人ネットワークの重要性が改めて示された。ただし、たんに幅広い人間関係があるだ

けでは十分ではないという点は、改めて指摘しておきたい。「第一志望以外に内定」した学生は、アルバイトなど学外の友人と幅広いネットワークを持ち、自他ともに優しい人間であると評価される、思いやりのある好人物であろう（図表IV-1参照）。しかし、第一志望に内定した学生は、同じくらい学内の交友関係や大学での授業や勉強というものを重視していた。おそらく、それが自らの本分であるからという感覚が伴っており、本来、自分がなすべきことに集中していける力が、いざ就職活動においては第一志望から内定を獲得するという結果に結びついているものと推測される。たんに幅広い対人ネットワークをもつだけでなく、大学生として、自分が本来なすべきこととして学業を重視できるか否かが最終的に第一志望の就職先に内定を取得できるか否かを分ける要因になっていたという点は、本調査におけるもっとも主要な結果である。本調査結果は、「対人志向」と表裏一体のものとして「勉強志向」の重要性を示すものであったとまとめることができるであろう。

[引用文献]

- 山本真理子・松井豊・山成由紀子（1982）． 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.
- 加藤厚・加藤隆勝（1987）． 現代青年の社会態度の構造—態度を構成する次元の検討 筑波大学心理学研究 9 87-93.